

令和5年度 社会教育委員会議 第1回定例会 次第

日時 令和5年5月26日(金) 午後3時00分～
会場 飯田市美術博物館 講堂

1 開 会

2 委嘱状交付

3 あいさつ(熊谷教育長)

4 委員・職員自己紹介 資料1

5 説明・確認事項

(1) 飯田市教育委員会の組織について 資料2

(2) 社会教育委員の職務について 資料3

(3) 社会教育関係各課・館・所の令和4年度事業報告及び令和5年度の方針について 資料4
(第2次飯田市教育振興基本計画 中期4年間の取組(いいだ未来デザイン2028中期計画戦略計画)に掲げる重点事業)

6 協議事項

(1) 座長、副座長の選出について

座 長:1人【

委員】(飯伊社教委連絡協議会理事、県社教委連絡協議会代議員)

副 座長:1人【

委員】(飯伊社教委連絡協議会理事)

座長、副座長挨拶

*以下の進行:座長

(2) 審議会等への委員の選任について 資料5

(3) 飯田市キャリア教育の推進について 資料6

(4) 部活動地域移行を見すえた中学生期のスポーツ・文化芸術活動環境の充実に向けた取組について 資料7

(5) 社会教育関係団体の登録推移について

ジャンル 年度	学習・交流		スポーツ・健康		合計	
	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数
令和4年度	565	26,065	548	14,021	1,113	40,086
令和3年度	568	26,787	554	15,020	1,122	41,807
令和2年度	589	28,710	556	14,652	1,145	43,362
令和元年度	618	29,075	556	14,797	1,174	43,872
平成30年度	602	28,095	566	14,128	1,168	42,223

7 社会教育委員会議の活動についての意見交換・情報交換

8 教育委員会各課・館・所からの報告事項

9 今後の日程

期 日	会議等名	会 場
6月5日(月)	飯伊地区社会教育委員連絡協議会 理事会(正副座長)	飯田合同庁舎
6月14日(水)	長野県社会教育委員連絡協議会 理事会・総会・講演会	県総合教育センター
6月23日(金)	飯伊地区社会教育委員連絡協議会 総会・研修会	喬木村
7月19日(水)	県社教委連絡協議会理事会	長野県庁
9月14日(木)	長野県社会教育研究大会	県総合教育センター
未定	飯伊社会教育委員連絡協議会 中北部ブロック研修会	高森町当番
未定	社会教育委員会議 臨時会	市内社会教育施設
11月9日(木)～ 10日(金)	全国社会教育研究大会(宮崎大会)	宮崎県宮崎市
11月21日(火)～ 22日(水)	関東甲信越静社会教育研究大会 (栃木大会)	栃木県宇都宮市
11月24日(金)	県社教委連絡協議会理事会	長野県庁
12月6日(水)	飯伊地区社会教育委員連絡協議会 理事会(正副座長)	飯田合同庁舎
令和6年2月14日(水)	県社教委連絡協議会理事会	長野県庁
3月中旬	社会教育委員会議 第2回定例会	市内社会教育施設

10 その他

11 閉 会

(事前配布資料)

- ・資料1 令和5年度 飯田市社会教育委員名簿
- ・資料2 飯田市教育委員会の組織について
- ・資料3 社会教育委員の職務について
- ・資料4 第2次飯田市教育振興基本計画 中期4年間の取組
- ・資料5 審議会等への委員の選出について
- ・資料6 飯田市キャリア教育の推進について
- ・資料7 部活動地域移行を見すえた中学生期のスポーツ・文化芸術活動環境の充実に向けた取組について

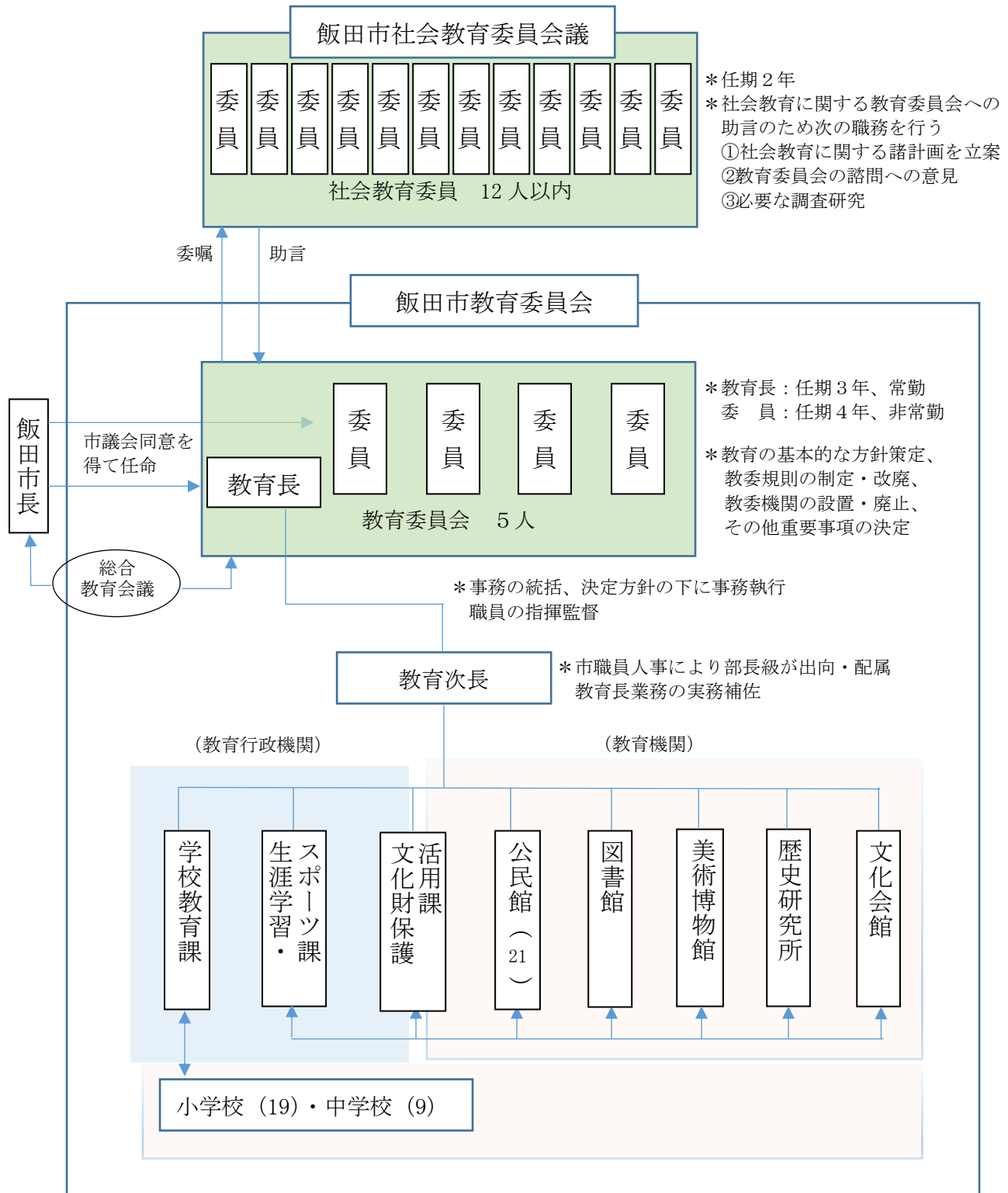
令和5年度 飯田市社会教育委員 名簿 (50音順 敬称略)

令和5年4月1日現在

氏 名	種 別	新/再
いまむら さちこ 今村 幸子	社会教育関係者	再
いまむら みつとし 今村 光利	社会教育関係者	再
たきざわ ゆういち 滝澤 勇一	学校教育関係者 飯田東中学校長	新
たけうち みのる 竹内 稔	学識経験者	再
たぜえ そうふみ 田添 莊文	学識経験者	新
つつい りょうじ 筒井 良二	学識経験者	新
ながい ゆうこ 永井 祐子	学識経験者	再
なかむら ゆ み こ 中村 由美子	家庭教育関係者	新
は せ べ ともこ 長谷部 智子	社会教育関係者	新
ひらた むつ み 平田 睦美	学識経験者	再
みうら ひろこ 三浦 宏子	社会教育関係者	再
もりもと のりこ 森本 典子	社会教育関係者	再

教育委員会職員名簿			
職 名		氏 名	
教育長		熊谷 邦千加	
教育次長		秦野 高彦	
学校教育課長		福澤 好晃	
学校教育専門幹		今井 栄浩	
生涯学習・スポーツ課長		伊藤 弘	
文化財保護活用課長		宮下 利彦	
歴史研究所副所長		牧内 功	
公民館副館長	上沼 明彦	社会教育係	本島 秀勇
文化会館長	下井 善彦		矢澤 健
中央図書館長	瀧本 明子		樋口 晋哉
美術博物館副館長	牧内 功		片桐 和子

飯田市教育委員会の組織及び社会教育委員の位置づけ



社会教育法(昭和24年6月10日法律第207号) <抜粋>

第4章 社会教育委員

(社会教育委員の設置)

第15条 都道府県及び市町村に社会教育委員を置くことができる。

2 社会教育委員は、教育委員会が委嘱する。

(社会教育委員の職務)

第17条 社会教育委員は、社会教育に関し教育委員会に助言するため、次の職務を行う。

(1) 社会教育に関する諸計画を立案すること。

(2) 定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること。

(3) 前2号の職務を行うために必要な調査研究を行うこと。

2 社会教育委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べることができる。

3 市町村の社会教育委員は、当該市町村の教育委員会から委嘱を受けた青少年教育に関する特定の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えることができる。

(社会教育委員の委嘱の基準等)

第18条 社会教育委員の委嘱の基準、定数及び任期その他社会教育委員に関し必要な事項は、当該地方公共団体の条例で定める。この場合において、社会教育委員の委嘱の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

飯田市社会教育委員条例(昭和54年飯田市条例第7号)

(設置)

第1条 社会教育法(昭和54年法律第207号。以下「法」という。)第15条の規定により、本市に社会教育委員(以下「委員」という。)を設置する。

(委員の委嘱)

第2条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から教育委員会が委嘱する。

(定数)

第3条 委員の定数は、12名以内とする。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。

2 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補則)

第5条 この条例に定めるもののほか、委員の会議その他委員に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

飯田市社会教育委員会議運営規定(昭和54年教委訓令第1号)

(趣旨)

第1条 飯田市社会教育委員条例(昭和54年飯田市条例第号)の規定に基づく、飯田市社会教育委員(以下「委員」という。)の会議はこの規定の定めるところによる。

(座長及び副座長)

第2条 委員の会議に座長及び副座長を置き、委員が互選する。

- 2 座長は、委員の会議を代表し、会務を総理する。
- 3 副座長は、座長を補佐し、座長に事故あるときはその職務を代理する。
- 4 座長及び副座長の任期は1年とする。

(委員の会議)

第3条 委員の会議は、教育長が招集し、座長が議長となる。

- 2 委員の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(委員の会議の通知)

第4条 会議開催の日時及び場所は、会議に提案すべき案件とともに、招集の日前2日までに委員に通知しなければならない。ただし、急を要する場合は、この限りでない。

(定例会及び臨時会)

第5条 委員の会議は、定例会及び臨時会とする。

- 2 定例会は、年2回とし、臨時会は必要に応じ招集する。

(委任)

第6条 この規程に定めるもののほか、会議の運営について必要な事項は、座長が会議に諮って定める。

12年間の取組 教育ビジョン 地育力による 未来をひらく 心豊かな人づくり

4年間の取組（令和3～6年度） 3つの重点目標 12年間の飯田市の教育ビジョンと、教育振興の6つの方針、さらには取組の12の柱を踏まえて、令和3年度から令和6年度までの中期4年間に、重点的かつ組織横断的に取り組む「重点目標」を以下のように掲げます。

重点目標1 “結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む（いいだ未来デザイン2028 基本目標3）

アクションプログラム（いいだ未来デザイン2028戦略計画では小戦略に位置づく）

■ 学力保障・学力の向上

お互いを認め合い、安心して学べる学級づくりを目指し、子どもたちの学力の保障・向上と不登校対策のため、小中連携・一貫教育を進めます。また、コロナ禍への対応含め、全ての教育活動を通じてICTの活用を推進します。

項目	現状(R1)	目標(R6)
全国学力・学習状況調査における小学校国語、算数、中学校国語、算数の全国平均との比較	小6国語○ 小6算数○ 中3国語△ 中3数学△	小6国語○ 小6算数○ 中3国語○ 中3数学○
自己肯定感(自分の良いところ)全国平均差	小-1、中-3	全国平均

* 全国平均以下の状況。令和6年度までに全国平均を目指します。

■ 温かな人間関係づくりと誰ひとり取り残さない教育や支援

日常生活における自他の尊厳を尊重する態度を育成し、互いを認め合える温かな人間関係づくりと個に寄り添った誰ひとり取り残さない教育や支援を推進します。

項目	現状(R1)	目標(R6)
不登校在籍比	小 0.87% 中 3.91%	前年度以下

* 不登校児童をなるべく増やさないよう前年度以下の在籍比を目指します。

■ 飯田コミュニティスクールを活かした地域・学校・家庭での教育の推進

飯田コミュニティスクールを活かし、地域・学校・家庭がそれぞれ当事者意識を持って協働し、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを進めます。

■ 食育の推進

学校給食の地産地消、有機食材の導入拡大と、献立に地域の旬の食材や郷土食、行事食を取り入れる工夫に努めながら、学校給食を活用した食育に取り組みます。

項目	現状(R1)	目標(R6)
飯田下伊那産野菜主要10品目使用率	54.1%	55.0%

* 地場産物使用割合全国平均26.0%(H30)。現状も高いため現状維持を目指します。

■ 子どもの読書活動の推進

子どもが読書を楽しみ、感性や言葉を豊かにし、想像力、表現力や情報活用する力をつけられるよう、乳幼児期から発達段階に応じて読書体験の充実に取り組みます。

項目	現状(R1)	目標(R6)
授業以外に1日10分以上読書をしている児童生徒割合(県:小6-69.0%、中3-57.1%)	小6-67.1% 中3-55.6%	県平均以上

* 日常的に本に親しんでいる児童生徒の割合。
現状は全国平均以上ですが、全国平均より高い県平均以上を目指します。

■ 児童の放課後の居場所づくり

就労等で放課後保護者等が不在となる家庭の児童の居場所づくりのため、児童支援員の確保や適切な配置に努めるとともに、4年生以上高学年の受入希望にも対応できる組織・体制づくりを進めます。

■ 少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組

児童生徒の減少や学校施設の老朽化が進んでいる中で、地域に根差した飯田らしい教育環境が展開され、将来にわたり子どもたちが主体的に学び合う場とするためには、どのような学校がよいのか、子どもたちの未来のため、みんなで考えていきます。

■ 防犯・通学路の安全対策・環境整備・気候変動対応

児童生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるよう、通学路安全対策や環境整備を進めるとともに、気候変動に適應した校外活動に取り組みます。

重点目標2 豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む（いいだ未来デザイン2028 基本目標4）

アクションプログラム（いいだ未来デザイン2028戦略計画では小戦略に位置づく）

■ 住民の主体的な学びあいの支援

住民の自治の力を高め、地域の担い手を育むため、住民の主体的な「地域の自然や文化などの地域資源を生かした学習や地域の課題解決に向けた学習」を支援します。

項目	現状(R1)	目標(R6)
住んでいる地区や飯田市の自然、歴史、文化等に誇りや愛着がある人の割合	69.2%	74.3%

* 市民意識調査の数値です。前期の基準年(H27)の数値を目指します。

■ 子どもの主体性、創造性、社会性、協調性、課題解決力などを育む学習の展開

LG（地域・地球）飯田教育の理念や地育力を活用した環境学習、ふるさと学習、体験学習等を幼児期から高校まで体系立て、子どもの主体性、創造性、社会性、協調性、課題解決力などを育み、多様な自己実現の可能性を広げます。

項目	現状(R1)	目標(R6)
地域や社会を良くするために考えることがある割合(県:小57.0%、中43.9%)	小55.9% 中40.0% 高新規	県平均以上

* 現状は全国平均以上ですが、全国平均より高い県平均以上を目指します。

重点目標3 文化・スポーツを通じて人と地域の輝き・うるおいをつくる（いいだ未来デザイン2028 基本目標5）

アクションプログラム（いいだ未来デザイン2028戦略計画では小戦略に位置づく）

■ 「人形劇のまちづくり」の推進

人形劇の公演・創造活動を楽しみ、その魅力を発信するとともに、「人形劇のまち」を改めて強くアピールし、国内外との交流を進めます。

項目	現状(R1)	目標(R6)
市内で上演した人形劇公演数	498	500
人形劇で交流した国内外の交流数(回)	11	15

* コロナ禍の後に交流を再開し、現状を超えることを目指します。

■ 文化芸術の鑑賞や市民の主体的な文化芸術活動の展開を支援

多様な文化芸術の鑑賞機会や文化芸術活動の取組の充実を進めます。

項目	現状(R1)	目標(R6)
文化活動を1回以上行っている人の割合	63.9%	65.0%

* コロナ禍で抑えられた活動が再開し、これまでの最高値(64.3%)を超えることを目指します。

項目	現状(R1)	目標(R6)
人の役にたつ人間になりたいと思う割合(全国:小95.2%、中94.3%)	小95.5% 中95.0% 高新規	現状維持

※社会を支える上で大切な視点です。高水準ではありますが、現状維持を目指します。

■ 飯田の価値と魅力の学びと発信

飯田の価値と魅力を学び次代に繋げると共に、その素晴らしさを発信します。

■ 伝統文化、文化財の保存・継承・活用の推進

民俗芸能などの伝統文化や恒川官衙遺跡、飯田古墳群、名勝天龍峡などの地域資産を地域の宝として守り、発信します。

項目	現状(R1)	目標(R6)
地域資源(指定文化財等)の活用件数	41	50
霜月祭・伝統人形芝居の保存会員数	202	現状維持

* 指定文化財数の4分の1の活用を目指します。

* 地域の文化を絶やさず継承していくために、現状維持を目指します。

■ 社会教育施設の整備、サービス向上

誰もが安全で快適に利用できる社会教育施設の整備やサービスを向上させます。

項目	現状(R1)	目標(R6)
社会教育団体(文化・芸術・芸能活動)申請登録会員延べ人数	7,692	8,000

* 登録人数が減少傾向の中、3年前に登録の実績がある目標(R6)の値を超えることを目指します。

■ 新たな文化芸術活動の拠点づくり

飯田市の文化芸術活動の拠点施設としての新文化会館の建て替えに向けた検討を進めます。

■ 市民のスポーツ活動、・コミュニティづくりの支援、スポーツイベントの開催

市民の様々なスポーツ活動を支援し、発信するとともに、スポーツや運動習慣の定着と、スポーツを通じたコミュニティづくりを進めます。また、飯田市の特徴を活かしたスポーツイベントを開催します。

項目	現状(R1)	目標(R6)
成人の週1回以上スポーツに親しむ人の割合	48.2%	—
子どもの体力・運動能力調査におけるA・Bの割合	38.5% (全国43.2%)	全国値以上

* 「スポーツ」自体の定義や、スポーツ文化の浸透度合いなど、市民意識調査の項目をR3に見直し予定。それに伴い、目標値も適切に設定。

* 全国平均以下の状況。令和6年度までに全国平均を目指します。

■ 競技スポーツ人口の拡大と競技志向の向上

トップアスリートの指導やプレーに触れる機会、スポーツ指導者の育成などを通じて、競技スポーツ人口を拡大し競技志向を高めます。また、地域でトップアスリートを育てることができる体制を目指します。

■ 中学生期の多様なスポーツ環境の充実

全市型競技別スポーツスクールなど中学生期におけるスポーツの多様な選択肢を充実します。

項目	現状(R1)	目標(R6)
全市型競技別スポーツスクールの種目数	13(R2)	16

* 多種のスポーツに触れる環境として、スポーツ協会とともに種目数を増加させます。

■ スポーツ施設の整備、サービス向上

誰もが安全で快適に利用できるスポーツ施設の整備やサービスを向上させます。

第2次飯田市教育振興基本計画 中期4年間(R3～6)の取組(いいだ未来デザイン2028中期計画(R3～6)戦略計画)

重点目標 1 “結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む
(いいだ未来デザイン2028 基本目標3)

アクションプログラム③ 飯田コミュニティスクールを活かした地域・学校・家庭での教育の推進			
(1)	地域に誇りと愛着を抱き、将来の地域づくりを担い、支える人を育むため、幼少期から高校期までの継続的で系統的なキャリア教育を地域・学校・家庭が連携して進めます。		
(2)	小・中学校が掲げる「めざす子ども像」の実現に向け、地域・学校・家庭が学校運営協議会で課題を共有し、それぞれの役割を提案・相互承認し、連携して取り組みます。また、飯田コミュニティスクールの取組について、地域に向けて発信し周知を図るとともに、全市的な横展開を図ります。		
事務事業名	主管課	令和4年度の成果及び課題	令和5年度の取組方針
地育力向上連携推進事業	生涯学習・スポーツ課	・幼児期から高等教育期まで一貫した地域人育成が展開できるよう協議会や研究会で研究・検討を行い、キャリア教育推進フォーラムでその取組の方向性を確認しました。発達段階を繋いで行くための取組や、高校における探究的な学びへの関わり方などをさらに研究・検討し関係者で共有していく必要があります。 ・飯田の学びの総合情報サイト「結いなびIIDA」の運用を進めました。しかしながら、様々な情報発信サイトがあったり、利用に苦手意識を持っている方が多かったり思うように活用されていない状況があります。	・キャリア教育推進協議会や、庁内横断的な連携会議を開催し、職域や分野を超えてキャリア教育の考え方を共有して取り組みます。また、関係機関・団体等が連携してキャリア教育推進フォーラムを開催します。 ・市内高等学校が求める探究学習の相談窓口の一元化による高校の学びを支援します。 ・「結いなびIIDA」の機能の一つである、知る・学ぶに搭載する情報を充実させてサイトの価値を高め、利用頻度の高い利用者とモデル的な取組を検討したりして、利用促進を図ります。
飯田コミュニティスクール推進事業	飯田市公民館	・中学生の地域でのボランティア活動や地域の学校支援等に取り組みました。 ・特に中学生の地域でのボランティア活動が広がってきています。 ・親の就労等社会環境の変化から親子の触れ合う機会が少なくなり、家庭における教育力の低下が懸念されています。 ・地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、連携・協働した地域づくり・学校づくりが求められています。	・「めざす子ども像」実現に向け、地域・家庭・学校が学校運営協議会で課題を共有し、三者が一体的に取り組みます。 ・各校の「学校だより」等により、学校運営協議会で話し合われたことや学校支援ボランティアの活動など、コミュニティスクールの取組を発信します。 ・各学校の特色を生かした「いいだCS協働活動(地域学校協働活動)推進事業」を推進し地域全体で子どもたちの成長を支えるとともに、子どもを核とした地域づくりを進めます。

アクションプログラム⑤ 子どもの読書活動の推進	
(1)	はじめまして絵本プレゼントやセカンドブックプレゼントなどにより、乳幼児期の読みきかせを通じた親子のふれあい体験や幼児が絵本や物語を楽しむ機会を増やします。
(2)	小学生が本に関心を持ち自発的な読書が行えるよう支援し、読書習慣の定着を図ります。また図書館等を使って情報を収集し、選択・活用する力を、小中学校を通して段階的に育みます。
(3)	ムトスぷらぎ内に中央図書館のサテライト機能を設置し、高校生読書の読書や探求学習等を支援します。

事務事業名	主管課	令和4年度の成果及び課題	令和5年度の方針
子ども読書活動推進事業	中央図書館	・7か月児家庭へ絵本をプレゼントする「はじめまして絵本」と4歳児（年中児）へ絵本をプレゼントする「おともだち絵本」についてアンケートを実施し、いずれも親子のふれあいや読みきかせの推進に効果をあげていることが確認できました。保育所等36園へ団体貸出を実施、分館貸出利用も含め28園で家庭への絵本の持ち帰りが行われています。 ・小学生の自発的な読書に向けて、学年別図書リスト「よむリス」の5年生版を市図書館と学校図書館が共同で作成、家庭へ呼びかけ、学校、分館等でも活用を行っています。 ・5月にムトスぷらざ内へ飯田駅前図書館を設置し、高校生に親しみやすい場所になるよう図書の展示や企画等を行いました。	・「はじめまして絵本」「おともだち絵本」事業を継続し、まだ絵本の家庭への持ち帰りを行っていない保育所等へも働きかけを行います。 ・学校図書館と共同で、6年生向け「よむリス」を作成し配布、これまで作成したリストもあわせて活用を図ります。また、学校図書館との連携・協力を強め、小中学生の自発的な読書活動に向けて取り組みます。 ・駅前図書館を拠点に、高校生の読書や活動に向けて、高校司書会と連携しながら取り組みます。

重点目標 2 豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む
（いいだ未来デザイン2028 基本目標4）

アクションプログラム① 住民の主体的な学びあいの支援			
(1)	飯田市や市内各地区の自然、歴史、文化、産業といった地域資源を活用した学びや住民の関心に応える多様な学習を支援するとともに、地域課題の解決を目指す学習活動を推進します。		
(2)	多文化共生社会を実現するため、多様な価値観や国際感覚を養うとともに、平和学習、人権教育を推進します。		
(3)	ムトスぷらざを学習から実践に繋げるまちづくりの新たな拠点として整備します。また、多様な価値観を持った人々の交流・気づき・学びから地域の将来を担う人材を育成やムトスマちづくり活動を支援する取組を推進します。		
事務事業名	主管課	令和4年度の成果及び課題	令和5年度の方針
文化財保護事業	文化財保護活用課	・令和6年度の旧小笠原家書院建築400年を契機とした地域主体の取組について、地元プロジェクト委員会へ参画し、調査検討を始めました。 ・松尾公民館「古墳学習会」、毛賀史学会「遺跡学習会」、座光寺公民館「麻績の里体験学校」、史跡見学会など、地域の歴史・文化を学習する活動を支援しました。	・令和6年度の旧小笠原家書院建築400年記念事業の実施に向け、地元プロジェクト委員会と連携して準備を進めていきます。 ・地域の歴史・文化等を学習する活動を、出前講座・展示、史跡現地の解説案内により支援します。
歴史研究所事業	歴史研究所	・「満洲移民」をテーマとした地域史研究集会、刊行した書籍をテーマとしたワークショップの開催ほか、各種講座の開催や学校・地域への講師派遣等により、市民や地域の学習を支援しました。 ・市民の主体的な学びの活動を担う人材の育成が必要です。	・引き続き、調査研究の成果を地域に還元し、市民や地域の学びの要望に応え、次世代に継続できるよう事業を行います。

美術博物館教育普及・活動支援事業	美術博物館	・特別展と連動した城下町サポーターの養成講座及び地域や公民館等と連携した出前講座や主催する各分野の講座開催により、地域を学習し、魅力を理解する機会としました。また、子ども美術学校に加え、中学校造形教室を新設しました。	・引き続き子どもたちの創造の可能性を高める講座等を行うと共に、調査研究の成果を講座等により、新たな発見や地域の魅力を学ぶ場を提供します。また、地域の学びや研究活動を支援します。
図書館事業	中央図書館	・実行委員会主催の読書会交流会開催により、新たな人を読書会につなぐことができました。 ・主体的に運営に関わる担い手不足が課題になっています。	・気軽に参加できる読書交流の場がつくれるように、引き続き支援します。
図書購入・提供事業	中央図書館	・駅前図書館へ高校生対象図書の移動にあわせ、中央図書館の蔵書を見直し図書の配置換えを行いました。 ・コロナ禍の休館で減少した分館の利用が、戻りつつはあるもののまだ少ない地区が多く、利用推進を図る必要があります。	・各図書館のニーズに沿った図書購入を行うと共に、レファレンス(調査相談)対応や本の紹介により主体的な学びを支援します。
多様な学習交流支援事業	飯田市公民館	・コロナ禍だからコロナ禍であってもできる事を進めるといった方針で様々な学習活動を進めてきました。 ・コロナ禍で自治活動が制限されていたことから、改めて学習活動を通じ、人とのつながりを大切にしたい地域づくりが求められています。 ・公民館は、住民の主体的な学習活動を通じて住民自治の意識を育む役割を担ってきていますが、さらに多様な学びと交流の機会を提供することで、地域の課題解決に向けた事業展開や学習活動となるよう支援していきます。	・地区住民が主体的に企画運営していく課題解決に向けた各種学級講座を実施します。 ・芸術文化や伝統文化への理解を高め地域振興に繋がります。 ・郷土を学ぶ交流を通じてふるさと意識を醸成します。 ・健康学習や交流を通じて、自身の健康への関心を高めます。 ・環境に関心をもつための学級講座や保全活動を支援します。 ・人権平和、多文化共生学習を通して、平和を尊ぶとともに、多様性への理解を深めます。 ・人材を育成するために、小さな集団を大切に、それぞれが重なり合う活動となるよう支援します。 ・20歳成人が地区実行委員会の活動を通じて地域を学ぶとともに、地域への愛着やふるさと意識を醸成します。
平和学習・人権教育推進事業	生涯学習・スポーツ課	・満蒙開拓平和記念館を活用した市内小中学校の平和学習に6校521人、飯田市平和祈念館には1校24人の児童・生徒が参加し、平和の大切さを学びました。 ・飯田市平和祈念館を開館しました。祈念館の展示・活用を進めるため、検討委員会を立ち上げました。また、高校生若者平和・人権・多文化ゼミナールを7回開催し延69人が受講しました。 ・LGBTQなど新たな人権課題も出てきており、継続的に人権教育を進めていくことが必要です。	・飯田市平和祈念館や満蒙開拓平和記念館を活用した、市内小中学校の平和学習支援や、高校生・若者を対象とした平和・多文化学習講座を行います。 ・飯田市平和記念館展示・活用検討委員会を開催し、祈念館の展示及び活用について、幅広い市民の意見をお聞きし、より良い祈念館となるように検討します。 ・飯田市平和祈念館の案内や収集した資料の整理を行います。 ・各地区や公民館等において、関係団体と連携した人権尊重に関する講座や講演会を開催します。

高校生等次世代育成事業	飯田市公民館	・ムトスぶらぎに創発コーディネートマネージャーを配置し、創発活動の支援を行いました。 ・高校の新学習指導要領では探究学習として「主体的で、対話的で、深みのある学び」の実現が求められています。 - 社会教育現場での取組や手法を学校教育における探究学習の実践に結び付けることができるような連携が必要です。 ・地域人教育の成果を他校や地域へ広げ、高校生の豊かな学びを支援していく必要があります。 ・住民自治や次世代育成の観点から、若者に対して多世代交流を意識した地域学習を行っていく必要があります。	・ムトスぶらぎにおいて、創発コーディネートマネージャーを中心に多世代を対象に思いを形にできる支援を実施し、発意型創発事業に繋がるよう取り組みます。
公民館維持管理事業	飯田市公民館	・令和4年5月に飯田市公民館を丘の上結いスクエアに、橋南公民館をりんご庁舎に移転しました。 ・旧飯田市公民館に比べて多く利用があり、より使い易い施設となるように取り組む必要があります。	・誰もが安全で快適に社会教育活動に取り組めるように施設管理を行います。
公民館改修事業	飯田市公民館	・飯田市公民館と橋南公民館の移転に向けた施設整備を行いました。	・住民の学びを支える施設が良好な状態で利用できるよう改修を行っていきます。
図書館・管理運営事業	中央図書館	重点目標 2 アクションプログラム⑤に記載	
子ども読書活動推進事業	中央図書館	重点目標 1 アクションプログラム⑤に記載	

アクションプログラム② 子どもの主体性、創造性、社会性、協調性、課題解決力などを育む学習の展開			
(1)	飯田型キャリア教育を軸として、幼児期から高校まで、発達段階に応じた育ちを地域社会と学校教育が連携しながら取り組みます。		
(2)	各高校の実情を踏まえ、地域人教育・学輪IIDAフィールドスタディ等、高校生の探究学習を支援し、ふるさとへの理解を深めていきます。また、ムトスぶらぎにおいて、高校生や若者の学習・交流活動や地域づくり活動を支援します。		
事務事業名	主管課	令和4年度の成果及び課題	令和5年度の実行方針

飯田コミュニティスクール推進事業	飯田市公民館	・中学生のボランティア活動を学校と連携して支援し、地域社会と学校教育が連携した子どもの育ちを支援する取り組みを実施しました。 ・小学生対象の体験活動に中高生がボランティアとして運営に携わるなど世代を超えた取り組みとなっています。 ・親の就労等社会環境の変化から親子の触れ合う機会が少なくなり、家庭における教育力の低下が懸念されています。 ・地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、連携・協働した地域づくり・学校づくりが求められています。	・各学校の特色を生かした「いいだCS協働活動(地域学校協働活動)推進事業」を推進し地域全体で子どもたちの成長を支えるとともに、子どもを核とした地域づくりを進めます。
乳幼児親子学習交流支援事業	飯田市公民館	・各地区において乳幼児学級を開催し、親同士の交流や子どもの様々な体験の機会となりました。昨年に引き続き、父親が参加する講座を設け、子どもとの触れ合い、育児への理解を図りました。 ・親の早期の職場復帰等、社会環境の変化により講座への参加が減少傾向にあり、地区内での子育て世代の仲間づくりができていく状況となっています。 ・親の悩みに応え、子育ての情報や知識を習得してもらうため、保健師と連携し、ニーズにあった講座運営を行う必要があります。	・各地区において、就学前の子供を持つ親同士が交流する機会を提供し、悩みの相談、子育てに関する情報交換や知識を得る活動を支援します。 ・学級講座の中で、地域住民の方を講師に迎える等、地域とつながる機会を創出します。 ・各地区の環境を生かし、0歳～3歳まで発達段階に応じた様々な体験活動を実施します。 ・乳幼児学級に父親の参加の機会を設けます。
高校生等次世代育成事業	飯田市公民館	・着火型創発事業として「高校生講座 東北スタディツアー」を実施しました。震災復興に携わる住民との交流を通して、自身の行動や生き方を考える機会を設けています。 ・飯田OIDE長姫高等学校の地域人教育や飯田風越高等学校の結プロジェクトや飯田女子高等学校など探究学習の支援を行っています。 ・高校の新学習指導要領では探究学習として「主体的で、対話的で、深みのある学び」の実現が求められています。 ・社会教育現場での取組や手法を学校教育における探究学習の実践に結び付けることができるような連携が必要です。 ・地域人教育の成果を他校や地域へ広げ、高校生の豊かな学びを支援していく必要があります。 ・住民自治や次世代育成の観点から、若者に対して多世代交流を意識した地域学習を行っていく必要があります。	・飯田の自治の仕組みを理解するとともに、日常生活の成り立ちを地球規模で観る力を養い、地域や世界とのつながりを意識しながら自身の行動や生き方を考える高校生講座を年間を通じて実施します。 ・各高等学校の実情を踏まえた探究学習や高校生の地域での学びを支援します。 ・ムトスぶらぎにおいて、高校生や若者による共に学び交流し合う機会をつくり、創発活動に向かっていくための学習支援を行います。

地育力向上連携推進事業	生涯学習・スポーツ課	重点目標 1 アクションプログラム③に記載
-------------	------------	--------------------------

アクションプログラム③ 飯田の価値と魅力の学びと発信

- | | |
|-----|---|
| (1) | 地域の自然と文化や先人の営みなどを明らかにする学術研究を学輪IIDA等の地域外の知見も活用しながら進めます。また、様々な技術を活用し魅力ある展示や講座により研究成果を地域に還元するとともに、SNSなどを活用しながら飯田の魅力として発信します。 |
| (2) | 歴史研究所、美術博物館、図書館、公民館等の関係機関が連携して、市民学習・研究活動を支援します。また、「伊那谷の自然と文化」の研究と地域の価値や魅力を次世代に繋げる新たな人材の育成を、研究団体とともに進めます。 |
| (3) | 考古博物館で史跡「飯田古墳群」や市内全域の考古資料を用い、飯田市の魅力を発信できるよう取組を進めます。 |

事務事業名	主管課	令和4年度の成果及び課題	令和5年度の方針
文化財保護事業	文化財保護活用課	・考古博物館に保管している遺物を活用できるようにするため、古代の鎧「短甲」(2領)を保存修理しています。 ・飯田古墳群を紹介する考古博物館と史跡現地をつなぐ「歴史探検隊」(博物館見学・体験～飯沼天神塚古墳)を実施し、参加者に理解を深めていただきました。 ・「伊那谷の自然と文化・学びあい講座」で、「城下町飯田」の価値や魅力について、関係課館所専門職員の研究成果をリレートークし、参加者と共有しました。	・考古博物館の魅力を高められるように、保存修理した「短甲」を展示公開するとともに、「短甲」出土の意味、価値が学習できる講演会、見学会を実施します。 ・考古博物館における飯田古墳群のガイド機能が高められよう、史跡現地をつなぐ体験学習の機会を提供していきます。
美術博物館教育普及・活動支援事業	美術博物館	重点目標 2 アクションプログラム①に記載	
美術博物館展示公開事業	美術博物館	・特別展城下町飯田と飯田藩、特別陳列南アルプスジオパーク・ジオサイトを巡る等地域の自然や文化芸術、歴史などこれまでの調査研究の成果を展示公開しました。 ・調査研究の成果を効果的に展示し、地域の魅力を発信する必要があります。	・調査研究の成果を活かし、時機に照らしたテーマを設定した展示を行い「伊那谷の自然と文化」の魅力を発信し、学びに繋がります。
美術博物館プラネタリウム運営事業	美術博物館	・新型コロナの感染状況に応じた対策を行いながら投影を再開しました。幼保、小・中学校の学習来館を受入れ、オリジナル番組を活用して地域の魅力を発信しました。	・幅広い世代が楽しめる番組投影や星空観望会を行い、学習来館の計画段階から関わりを持ち、天文教育と地域の魅力を発信していきます。
歴史研究所事業	歴史研究所	・古文書講座を美術博物館と共催して開催しました。 ・地元研究団体、学校、公民館への講師派遣等により、市民や地域の学習を支援しました。	・美術博物館と共催した古文書講座やトピック展示など、調査研究の成果を地域に還元し、市民の学びの要望に応え、次世代に継続できるよう事業を行います。

多様な学習交流支援事業	飯田市公民館	・今田人形保存会・黒田人形保存会・霜月祭保存会を支え、継承活動を支援しました。 ・コロナ禍で自治活動が制限されていたことから、改めて学習活動を通じ、人とのつながりを大切にしたい地域づくりが求められています。 ・民俗芸能も担い手の高齢化や減少が課題となっていますが、地域個性としての民俗芸能の継承を通じて、人々とのつながりを大切にしたい支援が必要です。	・保存会活動を支援し後継者育成に繋がります。 ・芸術文化や伝統文化への理解を高め地域振興に繋がります。 ・郷土を学ぶ交流を通じてふるさと意識を醸成します。 ・人材を育成するために、小さな集団を大切に、それぞれが重なり合う活動となるよう支援します。
図書館事業	中央図書館	・伊那谷地名講座やビジネス支援講座など、研究団体や地元企業と協働した講座を開催し、地域を学ぶ機会を提供しました。 ・地域の学びを深められるよう、各館所で行う講座等で資料リスト提供や図書展示を行いました。	・地元の研究団体と協働の講座を開催し地域の学習や研究を支援します。 ・高校生や若い世代に向けた地元を調べ発信する企画を実施し、地元への興味を広げます。 ・ホームページに郷土資料紹介を掲載し、情報発信します。
埋蔵文化財調査事業	文化財保護活用課	・黒田大明神原B遺跡の発掘調査中に、「家族で発掘たいけん教室」を実施し、地域の歴史、発掘調査の面白さ、発掘調査の必要性を知っていただきました。 ・発掘調査の成果について、見学者への解説、現地見学会の開催、文化祭等の展示を通して公開しました。	・公共事業、個人住宅、民間開発に伴う発掘調査や成果を整理し、報告書等により記録保存します。 ・発掘調査に際しては、調査成果をはじめ、その遺跡の価値や魅力を伝える手段を検討し、公開・発信していきます。
飯田古墳群保存活用事業	文化財保護活用課	・史跡飯田古墳群の追加指定に向け、令和3年度までに実施した、姫塚古墳(松尾)、大塚古墳(竜丘)の範囲確認調査成果を整理し、報告書へ記録保存しました。 ・久保尻遺跡、大塚古墳(竜丘)の調査成果を、地元文化祭で展示公開・解説し、地域の皆さんに知っていただきました。	・史跡飯田古墳群の追加指定に必要な実態を把握するため、馬背塚古墳(竜丘)の範囲確認調査を実施するとともに、調査成果を公開活用します。
恒川遺跡群保存活用事業	文化財保護活用課	・恒川史跡公園整備の基礎となる、正倉院エリア発掘調査を完了し、調査成果を見学会等により速報しました。	・史跡恒川官衙遺跡正倉院エリアにおける調査成果を整理し、報告書により記録保存するとともに、恒川史跡公園整備や、公開活用します。

アクションプログラム④ 伝統文化、文化財の保存・継承・活用の推進	
(1)	地域にある文化財の魅力や価値を市民が学ぶ活動を支援するとともに、継承し活用する活動を支援します。また、地域の文化財に関する学びの支援とともに、史跡・名勝はじめ地域での文化財活用の取り組みを支援します。
(2)	南信州民俗芸能継承推進協議会との協働連携や各保存会への活動支援を通じて、遠山霜月祭、伝統人形芝居、獅子舞などの魅力発信と後継者育成に努めます。また、遠山の霜月祭のユネスコ無形文化遺産登録に向けた市民の取り組みを支援します。
(3)	名勝天龍峡・恒川官衙史跡公園整備事業を通じた「2000年浪漫の郷」づくり・史跡飯田古墳群の活用において、学習会や体験ツアーを開催するとともに、市民ガイドなど市民自ら発信できるよう取り組みます。
(4)	北田遺跡公園の縄文時代復元住居の改修を地域と協働して取り組みます。

事務事業名	主管課	令和4年度の成果及び課題	令和5年度の方針
上村山村文化資源保存伝習施設管理運営事業	美術博物館	・指定管理者と連携して管理運営を行いました。 ・展示構成を組み替えて、一部展示更新を行いました。 ・他の施設や団体等との連携による多目的な利用により地域活性化に繋げることが必要です。	・引き続き、霜月祭りの展示を中心に地域の自然や文化の魅力を発信します。 ・資料館にこだわらない地域活性化に繋げる施設の多目的な活用を図ります。
南信濃民芸等関係施設管理運営事業	美術博物館	・美術博物館の巡回展示や各分野の講座を開催しました。 ・公民館や地域団体等との連携による多目的な利用により地域活性化に繋げることが必要です。	・定期的な巡回展示や講座の開催により、地域の自然や文化の魅力を発信し、地域の学びの場を提供します。 ・公民館や地域団体と連携し、施設の多目的な活用を図ります。
美術博物館資料調査研究・収集保管事業	美術博物館	・公開展示や教育普及事業などの博物館活動を行うために、美術博物館のテーマである「伊那谷の自然と文化」に関する作品・資料の収集、登録、展示につなげる継続的な調査研究活動を行いました。	・継続的に調査研究と収集保管事業を行うと共に、工事休館期間を活用し、整理登録作業を重点的に進めます。
多様な学習交流支援事業	飯田市公民館	重点目標 2 アクションプログラム③に記載	
人形劇のまちづくり事業	文化会館	・第40回伊那人形芝居公演は、コロナ禍のため無観客上演となりましたが、南信州民族芸能継承推進協議会の共催や、南信州俗芸能パートナー企業の協力により開催し、上演演目をYouTubeによる配信を行いました。 ・伝統人形劇を含む人形劇関連の英語版HPを作成し、国内外へ情報を発信しました。 ・コロナの感染対策をしながら、人形遣い、太夫、三味線の稽古を師匠を招き研修会を再開することができました。 ・高齢化による後継者不足が課題です。	・伊那人形芝居保存協議会と連携し、各保存会での研修会や公演活動への支援を行います。 ・飯田人形浄瑠璃振興会の実施する”人形浄瑠璃”の魅力面白さ再発見プロジェクトにより、小中高校でプロの技芸員による実演やワークショップを行い、若い世代に興味や関心をもってもらえるよう支援を行います。

文化財保護事業	文化財保護活用課	・水佐代獅子塚古墳(松尾)の修復、長石寺(竜丘)本堂彫刻の修理、鳩ヶ嶺八幡宮(松尾)本殿の環境整備に補助金を交付し、地域・保存団体等の保存継承活動を支援しました。 ・地域協働で北田遺跡公園の復元家屋改修事業に取り組むとともに、公園を身近に感じていただけるように、茅葺作業体験など、地元小学校が参加できる機会を提供しました。 ・「日本の神楽」のユネスコ無形文化遺産登録に向け、霜月祭保存団体等と共に、全国神楽継承・振興協議会に参加しました。 ・「名勝天龍峡の魅力再発見(川下り舟編)」として、地域の方々を対象とした、座学・体験乗船を実施し、天龍峡の魅力や楽しみ方を知っていただきました。	・地域の皆さんが文化財を学ぶ活動を支援するとともに、保存継承活動への支援に取り組みます。 ・「日本の神楽」のユネスコ無形文化遺産登録に向け、全国推進団体、霜月祭保存会と連携して推進します。 ・名勝天龍峡の価値や魅力を、体験学習できる機会を提供します。
恒川遺跡群保存活用事業	文化財保護活用課	・ガイダンス施設基本設計、展示基本計画を策定するため、外部等専門委員会、地元推進会議で検討・整理し、文化庁・県との協議を進めています。 ・「恒川史跡公園・清水エリア」を供用開始し、毎月1回、地域と協働で管理を行い、史跡公園の維持、体制の研究に取り組みました。 ・地元案内人と協働して史跡見学者を案内するなど、案内のノウハウを蓄積しました。	・ガイダンス施設実施設計を、外部等専門家の指導を受けながら、地元推進会議で検討し策定します。 ・整備の進捗に合わせ、史跡公園の運営管理、案内人が円滑に始動できるように、地域や公民館等と連携して、遺跡、史跡公園への理解を深める学習会、案内人の発掘・育成に取り組みます。
飯田古墳群保存活用事業	文化財保護活用課	・地域と協働して史跡飯田古墳群(高岡第1号古墳・塚原二子塚古墳・馬背塚古墳等)の環境整備、史跡学習会等を実施しました。	・史跡所在地の地域・保存団体と連携して、環境整備や学習活動、史跡案内人の発掘・育成活動に取り組みます。

アクションプログラム⑤ 社会教育施設の整備、サービス向上			
(1)	地域コミュニティの拠点である公民館や、美術博物館、図書館など社会教育施設の計画的な改修・整備を進めます。		
(2)	公民館、文化会館について、オンラインでの申請手続きから許可証の発行までが可能なシステムの構築を進めます。		
(3)	飯田市公民館の丘の上結いスクエアへの移転について市民の皆さんの意見を聞きながら進めるとともに橋南公民館の地域交流センター(りんご庁舎)への移転に向けて調整を図ります。		
(4)	地域の貴重な資料等の収蔵場所の確保について検討を進めます。		
事務事業名	主管課	令和4年度の成果及び課題	令和5年度の実行方針
文化財保護事業	文化財保護活用課	・考古博物館空調設備の改修をはじめ、文化財関連施設の維持に努めました。	・教育委員会施設等総合管理計画に基づき、所管施設の維持管理に努めて参ります。

公民館維持管理事業	飯田市公民館	・令和4年5月に飯田市公民館の丘の上結いスクエアへの移転、橋南公民館のりんご庁舎への移転を行いました。 ・公共施設予約システムを令和4年10月より稼働しました。 ・公共施設予約システムの安定稼働に向けた取り組みを進める必要があります。 ・経年劣化に伴う破損や法定点検等で指摘された不良個所について迅速に対応する必要があります。	・21公民館を誰もが安全で快適に社会教育活動に取り組めるようにサービスの向上に努めます。 ・施設利用者のサービス向上のために施設予約システムを運用します。 ・各公民館においてフリーWi-Fiの環境を提供します。 ・設備の法定検査等を行い施設の適切な維持管理を行います。 ・小規模な修繕は迅速に行います。
図書館管理運営事業	中央図書館	・中央図書館東側外壁改修工事、2階の一部空調設備更新工事、エレベーター改修工事、中2階照明LED化工事を行いました。 ・経年劣化による施設設備修繕が増加してきています。	・教育委員会施設等総合管理計画に基づき、中央図書館空調設備更新工事、書架表示照明LED化工事、上郷図書館トイレ洋式化工事など、計画的な改修や環境整備を進めます。
美術博物館管理事業	美術博物館	・施設等総合管理計画に則り、展示室の空調・照明管理装置の整備及び柳田館のコロナ感染対策機器の設備を行いました。 ・施設の長寿命化と来館者の安心安全を図るため計画的な施設の改修整備が必要です。	・安心安全な施設利用のため、施設等総合管理計画に則りロビー天井の耐震補強工事及び照明機器LED化工事など、施設の長寿命化にむけた計画的な改修整備を進めます。 ・改正博物館法に対応し、収蔵場所確保に向けた検討をしていきます。
公民館改修事業	飯田市公民館	・鼎公民館の電気設備・救助袋取替・舞台幕交換・ホール通路床改修を行いました。 ・龍江公民館の屋根外壁改修を行いました。 ・座光寺公民館のトイレ改修を行いました。 ・羽場公民館の照明をLED化しました。 ・龍江公民館大会議室・川路公民館図書室の空調を改修しました。 ・老朽化が進んでいる公民館の必要な改修については、飯田市教育委員会施設等総合管理計画に基づき、長期的な視点から計画的に実施する必要があります。	・各公民館の照明器具のLED化、トイレ洋式化について計画的に改修や環境整備を進めます。

文化会館等管理運営事業	文化会館	・令和4年10月からオンラインによる公共施設予約システムの運用を開始しました。これにより、ネット回線を通じて施設の空き状況の確認や会議室の予約が常時可能になり、利用者の利便性が向上しました。また、空き状況等の問い合わせが減少し、業務の効率化につながりました。 ・トイレの洋式化を文化会館1か所、人形劇場2か所行い、施設利用時の利便性が高まりました。 ・施設設備の法定検査や日常的な点検を実施し、必要な箇所は修繕を行いました。今年度は特にホール玄関前の段差解消と周辺環境を整備しました。	・予約システムからの申込みについて、定期的に会館を利用している団体の利用登録が少ないため、次回利用申込み時に登録の呼び掛けを行う等システム利用の普及を図っていきます。 ・経年劣化している人形劇場の音響設備を整備するため、ワイヤレスマイクシステムの更新を予定しています。
-------------	------	--	---

重点目標 3 文化・スポーツを通じて人と地域の輝き・うるおいをつくる

(いいだ未来デザイン2028 基本目標5)

アクションプログラム① 「人形劇のまちづくり」の推進			
(1)	みんなが仲間として参加できるいいだ人形劇フェスタの開催に向け支援します。		
(2)	市民が年間を通じて人形劇を観劇する機会、竹田人形館及び川本人形美術館での鑑賞や体験の機会を提供します。		
(3)	学校・保育園等で行われる人形劇活動や市民が演じることを楽しむ創造活動を支援します。		
(4)	AVIAMA(人形劇の友・友好都市国際協会)の情報発信や、シャルルヴィル・メジエール市など人形劇でつながる都市市民が交流する機会づくりをオンラインツールの活用で支援し、その取組を広く発信していきます。		
(5)	伝承される人形浄瑠璃を保存、継承するための活動を支援します。		
事務事業名	主管課	令和4年度の成果及び課題	令和5年度の方針
人形劇のまちづくり事業	文化会館	・フェスタ2022は、新型コロナ感染症対策を講じて準備を進めて来ましたが、南信州地域も含め全国的に感染が拡大したため、開催直前で急遽開催が中止となりました。 ・いいだ人形劇センターとの共催により、定期公演を始めとする人形劇の観劇の機会、活動発表の機会や、人形づくりのワークショップによる体験の機会を年間を通して提供しました。 ・子ども達に、人形劇をより身近に感じてもらうため、幼稚園や小学校への巡回公演を実施しました。(31園・学校) ・地元小学校とSVM市の小学校とオンラインによる文化の交流を行いました。 ・新型コロナの感染症法上の位置づけが代わるため、感染対策を緩和しつつ安心安全な開催方法の検討が必要です。	・フェスタ2023は、今年こそは、いっぱい笑顔に会いたい！「みんなの笑顔 まつとるに！」をテーマに、全国からの劇団のほか、友好提携を結んでいる春川人形劇フェスティバル(韓国)と雲林国際人形劇フェスティバル(台湾)から推薦された劇団も迎え、再び全国から笑顔が集まるフェスタをつくっていきます。 ・令和4年に引き続き、地元小学校とSVM市の小学校とオンラインによる文化の交流を行います。 ・教育現場での、人形劇の観劇や人形劇制作のための講師派遣を行い、創造力の育成に取り組みます。

竹田人形館管理運営事業	文化会館	・隣接する元善光寺の御開帳に合わせ多くの地域内外からの来館者を迎えることができました。 ・地元の小学校の課外活動や公民館活動として来館いただき、伝統人形芝居として糸操りの魅力を伝えることができました。 ・近隣の宿泊施設での実演を再開することができ、県外観光客へのPRを行いました。	・人形の展示の鑑賞だけでなく糸操り人形の実演による来館者の満足度の向上に、引き続き努めて行きます。 ・地元地域や竹田人形座竹の子会との連携による事業（麻績の里桜祭りや初春を寿ぐ竹田人形館の開催）を活用し、多くの市民に竹田人形館を知ってもらおう取組を行います。 ・いいだ人形劇フェスタと連携し、受け継がれていく「伝統人形芝居」として伝統人形芝居公演等を開催します。
川本人形美術館管理運営事業	文化会館	・開館15周年を記念し、開館以来となる川本喜八郎のアニメーション作家としての側面を掘り下げる企画展「人形アニメーションの世界」を開催しました。 ・コマ撮りワークショップやくすみ割り人形展など、幅広い層へのアプローチとした企画展を開催しました。 ・地元市民へのアプローチとして、橋南地区との試行事業「水引細工体験学習」をいいだ丘のうえ朝市と同日開催しました。	・渋谷区と連携した、人形の交流（三国志と平家物語）による多様なターゲット層へのアプローチを行っていきます。 ・地元地域と連携し、丘の上の回遊に向けた取組を行います。 ・季刊誌やHP,SNSを活用した情報を発信します。 ・2025年の川本喜八郎生誕100年に向けた準備を行います。
多様な学習交流支援事業	飯田市公民館	・昨年に引き続き小中学生の発表の場として学校人形劇の祭典を開催しました。いいだ人形劇フェスタが中止となる中で、飯田市公民館と山本公民館の二会場で8校の発表を行いました。 ・コロナ禍における地区公演のあり方を考え、開催に向けて準備をしてきましたが、残念ながら中止となりました。しかし、学校人形劇の祭典を開催するなどの取組みを開催するなどコロナ禍であってもできる事を考えてきました。	・地区公演の運営を中心にいいだ人形フェスタを支えています。

アクションプログラム② 文化・芸術の鑑賞や市民の主体的な文化芸術活動の展開を支援			
(1)	「菱田春草」をはじめとした地元ゆかりの作家の作品の魅力を紹介します。		
(2)	あらゆる年代の市民が多様な舞台芸術を鑑賞できる機会を設けます。		
(3)	市民が取り組む舞台芸術の創造活動を支援します。		
(4)	オーケストラと友に音楽祭、伊那谷文化芸術祭など市民が舞台芸術を鑑賞し、自ら発表できる機会を支援します。		
事務事業名	主管課	令和4年度の成果及び課題	令和5年度の実行方針
美術博物館展示公開事業	美術博物館	・春草作品の常設展示、館蔵作品や地元ゆかりの作家の作品を継続的に紹介すると共に地元作家の作品を展示しました。	・春草をはじめとした地元ゆかりの作家の作品を継続的に紹介すると共に、特別展と長野県展を行います。

文化会館文化芸術事業	文化会館	・事業の実施にあたっては、出演者、スタッフ、観客等関係者の感染対策を行い、「スキマスイッチ・コンサート」「にこにこステージ」「コンサート ア・ラ・カルト」等を実施しました。 ・舞台芸術創造支援事業については、要件の緩和等により新たな団体に支援を行うことができました。 ・オーケストラと友に音楽祭については、音楽クリニックの中学生コースが中止になりましたが、ほぼ例年通りの内容で開催することができました。伊那谷文化芸術祭は観客数や控室等の制限により4日間開催できました。	・今後、新型コロナウイルス感染症が感染症法の5類に変更されることから、事業実施については感染対策を検討し、より多くの市民に舞台芸術を鑑賞いただくよう計画していきます。
------------	------	--	---

アクションプログラム③ 新たな文化芸術活動の拠点づくり

(1) 新文化会館の建設に向けて、市民参加による構想・計画づくりを進めるとともに、駐車場や交通アクセス、周辺環境などを踏まえた建設適地の検討を行います。

事務事業名	主管課	令和4年度の成果及び課題	令和5年度の実行方針
文化施設整備事業	文化会館	・6月に新文化会館整備検討委員会を設置し、基本理念・基本構想の検討に着手しました。 ・年度内に5回開催した整備検討委員会では、公募委員や利用団体、分野選出の市民委員、学識委員から多様なご意見が出され、仮の基本理念の設定を行いました。 ・議会からは、市民の声が検討委員会や市民ワークショップに反映される仕組みや運営を求められています。	・新文化会館の建設に向けて、市民参加による構想・計画づくりを進めるとともに建設適地の検討を行います。 ・多くの市民が注目する事業であるため、定期的なニュースレターの発行や市のウェブサイトで検討状況を公開するなど、市民の理解を得ながら事業を進めます。

アクションプログラム④ 市民のスポーツ活動・コミュニティづくりの支援、スポーツイベントの開催

- (1) スポーツ推進委員を中心に、コロナ禍での運動習慣の定着に向けてウォーキングを推進するとともに、障がい者や高齢者を含めた多世代が地域で交流できるボッチャ等のニュースポーツの普及に取り組みます。
- (2) 運動好きの子どもを増やし、体力・運動能力の向上をめざすため、園児や保護者を対象としたコーディネーショントレーニングを実施するとともに、学校での一校一運動に取り組みます。
- (3) 飯田やまびこマーチや風越登山マラソン大会が多くの市民に参加いただく機会になるように取り組みます。

事務事業名	主管課	令和4年度の成果及び課題	令和5年度の実行方針
-------	-----	--------------	------------

市民スポーツ推進事業	生涯学習・スポーツ課	・4/23～24に飯田やまびこマーチを3年ぶりに通常開催し、883名の県内外の参加者、263名のボランティアの参加を得ました。また、日常的なウォーキングの取組として、各団体と連携して月いちウォークを3回実施しました。 ・飯田市スポーツ推進委員会が中心となり11/20にニュースポーツフェスティバルを開催し、障がい者や高齢者を含めた誰もが楽しめるポッチャの普及に取組みました。また、各地区においても公民館と連携し講習会や大会等を実施しました。 ・10/23風越登山マラソン大会を3年ぶりに開催し、コロナ禍での市民のスポーツ機会の提供、風越山への関心を高めました。 ・運動好きの子どもを育てる基礎となる幼児期の運動プログラムとして、コオーディネーショントレーニングを4保育園、川路小学校で実施しました。また、園児や小学校低学年の親子を対象としたコオーディネーショントレーニングを実施しました。 ・依然として、子どもの体力は低下傾向であり、幼少期からスポーツに親しむ習慣を定着していく必要があります。	・スポーツ推進委員会と連携して、日常的なウォーキングや多世代が交流できるポッチャ等のニュースポーツの普及に取り組み、市民の運動習慣の定着をめざします。 ・飯田やまびこマーチや登山マラソン大会を開催し、多くの市民に参加いただくとともに、県内外へ飯田市を広くPRしていきます。 ・子どもの体力・運動能力向上のため、園児や保護者を対象としたコオーディネーショントレーニング教室を実施します。また、幼少期の運動遊びの重要性を理解した指導者を増やすため、保育士や教員を対象とした研修会を実施します。
------------	------------	--	---

アクションプログラム⑤ 競技スポーツ人口の拡大と競技志向の向上			
(1)	競技スポーツへの関心を高めるため、飯田市スポーツ協会や民間スポーツクラブと連携してスポーツ教室等を開催し、トップアスリートのプレーに触れ交流・指導を受けられる機会を提供します。		
(2)	飯田市スポーツ協会や民間スポーツクラブと連携し、各競技団体の活動や指導者の育成を支援します。		
事務事業名	主管課	令和4年度の成果及び課題	令和5年度の実行方針
競技力向上支援事業 ※ 令和5年度より 競技スポーツ振興支援事業に名称変更	生涯学習・スポーツ課	・競技力向上や競技人口の拡大をめざす飯田市スポーツ協会の各競技団体が開催する教室や講習会、指導者育成のための研修会等の活動を支援しました。 ・野球やサッカー競技等の民間スポーツクラブが実施する教室や試合観戦を支援し、市民が一流選手のプレーに触れる機会を提供しました。 ・市長表敬等により、全国や県の大会に出場する選手の活躍を激励するとともに、ホームページや報道により広く市民に発信することで、市民のスポーツへの関心を高めました。	・競技力の向上、競技人口の拡大に取り組む飯田市スポーツ協会の運営を支援するとともに、民間スポーツクラブ等とも連携して、スポーツ教室の開催、ゲーム観戦など一流のプレーに触れ交流できる機会を提供します。 ・指導者の資格取得など、競技団体の活動や指導者の確保・育成の取組を支援します。 ・中央道沿線都市親善スポーツ大会の開催や県縦断駅伝競走大会、市町村対抗駅伝競走大会等への参加を通じて、競技スポーツへの関心を高めます。 ・全国や県の大会での選手の活躍を激励し、ホームページ等で広く市民に発信します。

アクションプログラム⑥ 中学生期の多様なスポーツ環境の充実	
(1)	民間や地域のスポーツクラブに加え、全市型競技別スポーツスクールを開催し、指導体制を含めた地域におけるスポーツ環境の充実に取り組みます。
(2)	筑波大学アスレチックデパートメントと連携して、ウェルビーイング※を目指したスポーツ活動の実現に向けて、部活動の活動運営の指針作りとそれに基づく実践研究を進めます。また、適正なスポーツ活動の推進に向けて、保護者や地域の指導者を対象にした研修会を開催します。 ※ウェルビーイング：心も体も健康で幸せな状態 楽しい、熱中する、仲良く、充実感を感じる、成長する等のさまざまな欲求を踏まえた部活動の運営
(3)	放課後の部活動を行わない期間(「冬季ジブン・チャレンジ期間」)の過ごし方について、生徒が具体的な目標をもって、やりたいことや伸ばしたいことに挑戦できるよう支援します。
(4)	中学校の部活動については、「飯田市中学校部活動の活動指針」に基づき、取り組みます。

事務事業名	主管課	令和4年度の成果及び課題	令和5年度の実行方針
市民スポーツ推進事業 ※ 令和5年度より 本事業の一部を文化・スポーツ活動の体制整備事業として分割する	生涯学習・スポーツ課	・飯田市スポーツ協会と連携して、中学生が様々な種目に触れる体験スクールと、技能を高める競技力向上スクールを実施しました。(16種目20講座のうち9種目開設、1月末現在 延べ講座数150回、登録者164人延べ参加者数991人) ・筑波大学ADとの連携により、生徒の心身のバランスに配慮した中学校部活動の適正化と生徒の主体性を大切にした「冬季ジブン・チャレンジ期間」を11月～1月に位置づけ、全中学校で取り組みました。(モデル実践校竜峡中学校、教員対象研修会の開催) ・またこの期間中、日頃スポーツ活動をしている生徒自身が自己管理できる力を育む取組として、スポーツ外傷・障害の予防研修会を2/28に実施しました。 ・生徒が主体となる部活動運営モデル事業として、7～9月に、東中、西中、旭ヶ丘中の部活動部員、顧問を対象とした研修会を開催しました。 ・部活動地域移行を見すえ、土日の中学生の地域における文化・スポーツ環境の充実に向けた取組が必要です。	・中学生が様々な競技種目を体験できる機会として、飯田市スポーツ協会と連携して全市型競技別スポーツスクールを開催します。また、社会教育機関等と連携して文化系講座を提供します。 ・学校部活動の地域移行をふまえて、地域における文化・スポーツ環境の充実を図るため、学校や関係団体等と協議検討する場を設けるとともに、学校と地域をつなぐコーディネーターを配置して、将来を見据えた体制づくりを進めます。 ・学校や筑波大学アスレチックデパートメントと連携し、生徒の主体性を育む取組みや指導者育成を進めます。 ・学校部活動の適正化や地域移行の目的について、説明会や研修会を通じて、保護者や地域指導者の意識を醸成します。

アクションプログラム⑦ スポーツ施設の整備、サービス向上				
(1)	市民がスポーツ施設を安全で快適に利用できるために、計画的に体育施設の改修を進めます。また、グラウンドの芝生化について、スポーツ協会や競技団体と協議し検討を進めます。			
(2)	体育施設について、オンラインで申請手続きから許可書の発行までが可能なシステムの構築を進めます。			
事務事業名		主管課	令和4年度の成果及び課題	令和5年度の実行方針

体育施設等維持管理・整備事業	生涯学習・スポーツ課	・管理人や専門業者による施設設備の定期的な点検や教育委員会施設等総合管理計画に基づき、県体育館屋根改修工事、飯田市武道館他15施設のトイレの洋式化等改修工事、競泳自動審判器の整備を実施しました。施設の老朽化が進んでおり、改修等計画的に進めていく必要があります。 ・グラウンドの芝生化について、スポーツ協会や競技団体と会議を行い、利用状況の把握や検討を行いました。 ・オンライン予約システムについて、10月1日から運用を開始しました。	・教育委員会施設等総合管理計画に基づき、武道館屋根外壁改修工事、天龍峡テニスコート夜間照明整備、照明LED化、競泳自動審判器更新、10施設のトイレ改修等体育施設の改修・整備を進めます。 ・安全な施設の利用環境を提供するため、施設・設備の保守点検及び施設管理人による日常的な管理を実施します。
-----------------------	-------------------	---	---

令和5年度 審議会等への委員の選出について

審議会等の名称	委員氏名 (敬称略)	任期
飯伊社会教育委員連絡協議会理事・県代議員		R5～ 2年
飯伊社会教育委員連絡協議会理事		R5～ 2年
飯田市美術博物館評議員	今村 光利	R4～ 2年
飯田市青少年問題協議会委員		R5～ 2年
青少年育成センター青少年育成推進委員		R5～ 2年
「人形劇のまち飯田」運営協議会	森本 典子	R3～ 3年
飯田市キャリア教育推進協議会委員		R5～ 1年
【新】飯田市中学生期の文化芸術・スポーツ活動 連携協議会		R5～ 2年
わが家の結いタイム推進協議会(校長会)		R5～ 1年
いいだ未来デザイン会議委員		R5～ 2年

地育力で私と地域の未来をひらく「飯田型キャリア教育」の全体像（イメージ）

R5年度 飯田市教育委員会

教育ビジョン：地育力による 未来をひらく ころ豊かな人づくり

*地育力：飯田の資源を活かして飯田の価値と独自性に自信と誇りをもつ人を育む力

変化の激しいこれからの時代を生き抜くために、地球規模で物事を考える広い視野と、生まれ育った地域に誇りと愛着を育むことが大切だと考えています。「地育力」を活用したふるさと学習や体験的な学びを軸とした「飯田型キャリア教育」を幼児期から高等教育期まで、発達段階に応じて切れ目なく推進していきます。「飯田型キャリア教育」では、自らの生き方を主体的に切りひらき、人とつながりあっていくための力を育み、ふるさとを心根に、未来の地域の担い手や地域を支える人（ふるさとへのよさに気づき、自ら関わろうとする態度をもつ人）づくりを目指します。

飯田型キャリア教育で育みたい4つの力

- 人とつながる力（結いの力）例：自己表現力、コミュニケーション能力、リーダーシップ、チームワークなど
- 自分を見つめ夢や希望を描く力（みつめる力）例：自己の役割理解、前向きに考える力、忍耐力、主体性など
- 課題をもって最後までやり抜く力（うごく力）例：情報収集・課題発見力、計画力、実行力、評価・改善など
- 職業や仕事について興味や関心をもつ力（みとおす力）例：学ぶこと・働くことの意義や役割、多様性の理解など

ふるさとへのよさに気づき、自ら関わろうとする態度をもつ人

【事例③】竜峡中学校

■「ふるさと竜峡を愛し、自ら考え、たくましく生きる子どもの育成」を目指し、全校で「地域と共に歩む活動」に取り組む。

- ・1年「農業体験」「ふるさと学習」…3地区の文化を「知る→体験→納得」し、地域への理解や愛着を深めていく。
- ・2年「職場体験」…「やりがいとは体験しないとわからない」職場の方とのつながりから、職業観の広がりや深まりを実感
- ・3年「福祉体験」…地域への参画・貢献への意識が高まる生徒たち。



【事例①】殿岡保育園

■飯田市の自然を生かした

「いいだ型自然保育」

- ・ツマグロヒョウモンとの出会いと、子どもの気づきやつぶやきから広がる活動。子どもたちの知りたいという意欲を大事に、命の大切さや神秘性を考えられる子が育つ。



■遊びや地域の方と触れ合いで、たくさん心と身体を動かす。

- ・困った時は「田んぼのおじさん」に聞こうとする子どもたち。
- ・保育士が地域の自然環境にアンテナ高く、子どもの成長を見守り記録していく。

※左下は保育園・認定こども園の実践を示し、右上がりのキャリア形成上に小学校や中学校のキャリア教育実践があり、右上が高等学校・高等教育機関の実践を表す。

子どもたちが自分事として取り組み、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりして、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなげる。

【カリキュラム・マネジメント】

地域の魅力や子どもの実態を把握し、教育課程を教科等横断的な視点で組み立て、評価・改善しながら系統的・組織的に地域人の育成を図る。

- ◆総合的な探究の時間（質の高い探究）
- 地域協働型探究活動（地域人教育）
- ・社会的な課題を仲間と協働・解決に向け取り組む
- 探究過程の高度化、探究の自律的な学び
- ・科目「課題研究」、「探究の時間」等

- ◆総合的な学習の時間
- 特別活動（キャリア教育の要）
- 職場体験学習（事前事後学習）、福祉体験、キャリアフェス、起業体験、生徒会活動等

- ◆生活科
- 総合的な学習の時間
- 特別活動（キャリア教育の要）
- ふるさと学習、宿泊体験活動、職場見学、児童会活動、環境学習等

- ◆遊び
- 動物飼育、作物栽培、自然保育

■園小連携推進委員会

- ＜遊び・生活科＞ 遊びの学び化
- 地域を散歩する・体験する・浸る
- [地域素材の視点：○○○○○]

知的好奇心「なぜ？ どうして？」

中学校区カリキュラムメンター（キャリア教育担当者）

探究アドバイザーとの出会い（地域の先生）

＜ふるさと学習＞ 体験の言語化

地域について学び、考え、伝える

[地域素材の視点：○○○○●]

キャリア・パスポート

＜職場体験・総合学習＞地域参画

地域とつながり、関わる

[地域素材の視点：○○○●●]

＜探究活動＞地域貢献

地域のために行動・貢献する

[地域素材の視点：○●●●●]

＜結いジュニアリーダー育成講座：年7回＞

●市内9校13名で構成

地域社会におけるキャリア教育

講座、イベントへの参加参画・地域貢献・ボランティア

地区行事への参加参画・ボランティア

分担されたお手伝い・地区行事への参加

遊び・わが家の時間・読書・会話・お手伝い

＊家庭や地域社会におけるキャリア教育とも連携していく

地域・社会（地域をつなぐ）

《例》地域学習素材から発展する探究事例：○蝶に興味園～○蝶の採集や生態（調べ学習）[小]～○●農業体験（自然に携わる方との出会い）[中]～●環境問題の調査・提言[高]～スパイラルに進行していく

園・小・中・高が一貫した理念で飯田型キャリア教育を推進し、産学官が協働することで持続可能な社会づくりの担い手である人材育成につなげる。



各学校段階におけるキャリア教育推進の主なポイント（文部科学省・長野県教育委員会）

幼稚園 保育園 こども園

人格形成の基礎となる豊かな心情、物事に自分から関わろうとする意欲や健全な生活を営むために必要な態度等を養う

小学校

働くことの大切さの理解、興味関心の幅の拡大等、社会性、自主性自律性、関心意欲等を養う

中学校

社会における自らの役割や将来の生き方、働き方等を考えさせ、目標を立てて計画的に取り組む態度を育成し、進路の選択・決定に導く

高等学校

生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度を育成し、これを通じて勤労観・職業観等の価値観を自ら形成・確立する

高等教育（大学・短大・専門学校）

学校から社会・職業への移行を見据えて、自らの視野を広げ、進路を具体化し、それまでに育成した社会的・職業的自立に必要な能力や態度を伸張・深化させる取組を教育課程の内外で充実

【事例⑤】飯田女子短期大学

■家政学科家政専攻デザイン有志学生

ひさかた和紙の方とのコラボレーション

・「ひさかた和紙」に伝統的な技法摺込

（すりこみ）でランチョンマットを製作。

様々な場所で人とつながり飯田の魅力を発信していく。

小学生とも交流。

探究のプロセスはスパイラルに進行

探究のプロセスはスパイラルに進行

探究のプロセスはスパイラルに進行

【事例④】飯田 OIDE 長姫高等学校

■「地域人教育」として商業科3年駅前

班による「XR、襲来 スマートグラスを用

いた飯田市への移住・定住促進に関する

研究」

・問い→仮説→調査実証→考察→

次の問いという

研究手法で地域

課題に取り組む。

探究のプロセスはスパイラルに進行

探究のプロセスはスパイラルに進行

探究のプロセスはスパイラルに進行

【事例②】丸山小学校

■地域と獅子舞（3年）

・地域の「羽場大獅子」「東野大獅子」

について「見て、聞いて、触れて」地

域の方と関わり本物に触れる。運動会

や文化祭で発表、

丸山保育園との

獅子舞交流等で、

地域の歴史や文

化を学び、郷土

に誇りを持ち、自己の成長や思いやり

の心が育っていった。

■身近な人との仕事調べ（6年）

・家族の仕事調べ、実際に職場体験を

通して新たな職業観をもち、家族への

感謝や自己の生き方を考えるようにな

った。

探究のプロセスはスパイラルに進行

※ 使用している事例は令和4年度の実践です。

令和5年度 飯田市キャリア教育の推進について

1 ねらい **教育ビジョン：地育力による 未来をひらく ころ豊かな人づくり**

＊地育力：飯田の資源を活かして飯田の価値と独自性に自信と誇りをもつ人を育む力

変化の激しいこれからの時代を生き抜くために、地球規模で物事を考える広い視野と、生まれ育った地域に誇りと愛着を育むことが大切だと考えています。

「地育力」を活用したふるさと学習や体験的な学びを軸とした「飯田型キャリア教育」を幼児期から高等教育期まで、発達段階に応じて切れ目なく推進していきます。

「飯田型キャリア教育」では、**自らの生き方を主体的に切りひらき、人とつながりあっていくための力を育み、ふるさとを心根においた未来の地域の担い手や地域を支える人**（ふるさとのよさに気づき、自ら関わろうとする態度をもつ人）づくりをめざします。

＊「飯田型キャリア教育」は「地育力で私と地域の未来をひらく教育」と説明しながら推進します。

2 地育力で私と地域の未来をひらく「飯田型キャリア教育」で育みたい4つの力

【文科省が例示する基礎的・汎用的能力】

【4つの力：飯田型キャリア教育で目標とする資質・能力】

■人間関係形成・社会形成能力

（かかわる力）

■自己理解・自己管理能力

（みつめる力）

■課題対応能力

（うごく力）

■キャリアプランニング能力

（みとおす力）

■人とつながる力（結いの力）

例：自己表現力、コミュニケーション能力、リーダーシップ、チームワークなど

■自分を見つめ夢や目標を描く力（みつめる力）

例：自己の役割理解、前向きに考える力、将来を描く力、忍耐力、主体的行動など

■課題をもって最後までやり抜く力（うごく力）

例：情報の理解収集、課題発見力、計画力、実行力、評価・改善など

■職業や仕事について興味や関心をもつ力

（みとおす力）例：学ぶこと、働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善など

**ふるさとのよさに気づき、
自らかかわろうとする態度をもつ人**

【長野県が目標とする資質・能力】

自分の人生を構想する

『キャリアデザイン力』の育成

・・・キャリアプランニング能力をベースに、1度しかない自分の人生について、職業を通してどう社会と関わり、どう生きていきたいのかを、構想し続けていく力

社会的・職業的に自立した人間の育成

長野県キャリア教育ガイドライン R2.3 改訂

＊令和2年度まで「飯田型キャリア教育」では、5つの力を育むように示されていたが、文科省の例示にあわせて4つの力に整理し、「ふるさとのよさに気づき、自らかかわろうとする力」は4つの力を支え、めざす姿とした。

3 地育力で私と地域の未来をひらく「飯田型キャリア教育」推進の方針

- (1) 子どもたちが地域の人や資源と関わりながら、実体験をともなう協働的な学びを行える場をつくる。家庭・地域と連携を強め、社会全体で子どもの学びの機会を支え、地域も磨き続けていく。
- (2) 子どもたちの発達段階に即し、幼児期から高等教育期まで一貫した理念で子どもを育てる。発達段階に応じた体系的な学びを、地域、事業所、教育・福祉、行政が目的を共有し、それぞれの役割を発揮しながら協働して支える。

＜ふるさと学習等の体系的な学び＞

地域を散歩・体験・浸る⇒地域を学び・知る⇒地域を考え・伝える⇒地域のために行動・貢献

- (3) 行政は、子どもたちの学びを支える多様な人や資源をつなげるコーディネート機能を果たす。

4 各学校における方策の留意点

- (1) 地育力を活用した「ふるさと学習」を中核に、小1～中3を見通し、小中一貫したキャリア教育年間指導計画に沿って実践を重ね、園とのつながりも含めて改善を図っていく。活動が「探究的な学び」となるように展開を工夫し、学んだことを地域に発信する等、表現活動を大切にするとともに、活動を通して常に自分を見つめ、将来へ向けての自分のあり方を考えさせていく。
- (2) 各学校では特別活動や教育活動全般を通じて「自己理解」「他者理解」「役割理解」の視点から取り組み内容を整理していく。特に地域の人や資源と関わる内容を大事にする。それぞれの場面で「意思決定」する場面を繰り返し位置づけ、目指す資質・能力（4つの力）を育んでいく。
- (3) 小学校から高等学校までキャリア教育に関わる諸活動について、自らの学習記録、自身の変容や成長を振り返り、地域の方・活動の伴走者との関わり等を端的にキャリア・パスポートに綴り、未来の自分を想像し続けていく。

参考

- 【自己理解】…自己の成長を実感することで、自分の得意なこと、好きなこと、努力すべき点を理解する
- 【他者理解】…協働することの意義を実感することで、人間の生き方の多様性と可能性を理解する
- 【役割理解】…社会（集団）の中の自分や他者の役割を実感することで、職業（仕事）を通して社会と関わることで、自分らしく生きる人生につながることを理解する

長野県キャリア教育ガイドライン R2.3 改訂

5 地域・社会教育におけるキャリア教育

- ・地域行事や講座、ボランティア活動においても、「自己理解」「他者理解」「役割理解」の視点を意識しながら事業に取組み、「意思決定」を行う場面を大事にし、目指す資質・能力（4つの力）を育んでいく。

6 家庭におけるキャリア教育

- ・「わが家の結いタイム」（「あいさつ」「お手伝い」「会話」「読書」）とも連携していく。

7 会議開催について

(1) 飯田市キャリア教育推進協議会

- ① 第1回 令和5年5月29日(月)
 - ・キャリア教育に関する基本的な方針と具体的な取組について協議
- ② 第2回 令和6年2月26日(月) 予定
 - ・今年度の取組の評価及び検証

(2) 飯田市キャリア教育研究委員会

- ① 第1回 令和5年6月8日(木)
 - ・信州大学教職支援センター 荒井 英治郎 准教授による講義
 - ・飯田型キャリア教育の推進について共通理解し、各校のキャリア教育の推進計画について発表
 - ・学びをつなぐ「キャリア・パスポート」の校種間の引継ぎや活用方法について情報交換
- ② 第2回 令和5年10月6日(金)
 - ・各校からの実践事例報告
- ③ 第3回 令和6年2月13日(火)
 - ・飯田市キャリア教育推進フォーラムを終えて成果と課題を協議

※幼児期から高等教育機関まで一貫した理念で子ども・若者を育てるために、今年度より高等教育機関との連携を図り、(1)・(2)の委員として、飯田短期大学と飯田コアカレッジに参加していただき、1年交代に委嘱していく

(3) 園小連携推進委員会

- ① 第1回 令和5年7月20日(木)
- ② 第2回 令和6年 月 日()

(4) 市内高等学校長との懇談

- ① 第1回 令和5年6月14日(水)
- ② 第2回 令和5年 月 日()
- ③ 第3回 令和6年 月 日()

(5) 高校・地域連携研究会

- ・市内各校代表教諭 ・ 昨年は年3回実施
- ・第1回は、飯田市キャリア教育研究委員会に参加し、飯田市や各校の取組を理解し合う
- ・事務局：大学誘致連携推進室 生涯学習・スポーツ課社会教育係

(6) 庁内調整会議 令和5年5月18日(木)

- ・各機関でキャリア教育・人材育成に関わる事業について情報共有

8 その他の取組

(1) 小中における取組

- ・小中連携・一貫教育推進委員会において、園小中高大の連携が重点の一つにあり、めざす子ども像に向けて小中一貫カリキュラムに沿って実践を重ね、ふるさと学習での育ちを共有したり、カリキュラムの修正をおこなったりする。

(2) 「結いジュニアリーダー」育成講座

- ・市内 9 中学校より中学 2 年生 13 人が年間 7 回の講座を土曜日に実施。
第 1 回（6 月 3 日）、第 2 回（7 月 22 日）、第 3 回（9 月 2 日）、第 4 回（10 月 14 日）、
第 5 回（12 月 2 日）、第 6 回（1 月 13 日）、第 7 回（2 月 10 日）

(3) 高校生への取組

① 高校生意識調査の実施

- ・12 月にキャリア教育に関わる 3 つの質問について、南信州 8 高校で実施し経年変化をみていく。
※ 地域への愛着度については、全国学力・学習状況調査の調査項目にないので、小学校 6 年、中
学 3 年生に 12 月に実施して経年変化をみる

問 1 ふるさと（自分の生活している地域）に対して愛着を感じていますか

問 2 地域(社会)をよりよくするために、地域課題の解決に関わりたいと思いますか

問 3 地域(社会)と自分のつながりや関係を意識しながら、自分の将来について考えることがありますか

② 総合的な探究の時間への支援、社会教育機関からのアプローチ

(4) 学校と企業が連携した取組

① 中学校職場・福祉体験の実施

- ・職場体験実務担当者会 第 1 回：5 月 16 日（火）、第 2 回：11 月 30 日（木）
・事業所（約 700）への照会の回答方法について、今年度より、FAX に加えてながの電子申請サービス
でも可能とした。

② 高校と地元企業をつなぐ取組について（産業振興課、生・スポ課支援）

9 令和 5 年度飯田市キャリア教育推進フォーラムの実施

- ・期日：令和 6 年 2 月 10 日（土） 会場：飯田市鼎文化センター
- ・R4 年度の内容は、第 1 部 幼児期から高等教育期までのキャリア教育実践発表
第 2 部 パネルディスカッション ・テーマ：これからの「飯田型キャリア教育」を考える

10 広域的なキャリア教育の取組

- ・上伊那と南信州が連携してキャリア教育を推進し、飯田市教育委員会も協力している。
- ・「伊那谷 de キャリア教育研修会」を実施予定
期日：令和 5 年 月 日（ ） 会場：南信州
内容：検討中

R5「飯田型キャリア教育を軸として、地育力を活かした幼児期から高等教育期まで一貫した地域人育成」の推進体制

飯田市キャリア教育推進協議会

- ・キャリア教育推進に関する
 - ①基本的な方針の策定 ②評価及び検証
- ・事務局：生涯学習・スポーツ課、学校教育課

○キャリア教育推進コーディネーター

(教育支援指導主事)
生涯学習・スポーツ課に在籍し、
キャリア教育全体の事業調整を行う

幼稚園・保育園・認定こども園	小学校	中学校	高校	大学・短大・専門学校
○地域を散歩する・体験する・浸る ・お手伝い ・友だちとの遊び ・地域行事、地域の方や小学生との交流	○地域を学び、考え、伝える ・決められたお手伝い・当番活動 ・家族の仕事調べ・社会見学 ・児童会活動・地域行事への参加	○地域とつながり、関わる ・キャリアフェス・地域の職場体験学習 ・生徒会活動・ボランティア ・地域行事への参加・参画	○地域のために行動・貢献する ・地域と協働した学び・探究学習 ・地元企業を知る・インターンシップ ・講座への参加・ボランティア	○地域のために行動・貢献 ・専門性を活かした地域と協働した学び ・探究学習・ボランティア

キャリア教育研究委員会

- ・キャリア教育の推進に関わる具体的な事業を行う
- ・関係課：飯田市公民館
- ・事務局：学校教育課、生涯学習・スポーツ課

園小連携推進委員会

- ・「発達や学びのつながり」を支える取組を考えたり周知したりする。
- ・関係課：子育て支援課
- ・事務局：学校教育課

高校・地域連携研究会

- ・「探究学習」の在り方を研究
- ・事務局：大学誘致連携推進室、生涯学習・スポーツ課

≪小中連携・一貫教育≫

- ・「ふるさと学習」中核に小中一貫したカリキュラムに沿って実践を重ねる。
- ・事務局：学校教育課

高等学校長との懇談会

- ・キャリア教育、探究的な学び、就労等への支援や情報共有を行う
- ・事務局：生涯学習・スポーツ課

「職場体験・福祉体験」
「結いジュニアリーダー育成講座」

- ・事務局：学校教育課、生涯学習・スポーツ課

「地域人教育」
・事務局：飯田市公民館
「就労促進に関する事業」
・事務局：産業振興課
「学輪IIDA・高大連携」
・事務局：大学誘致連携推進室

飯田市キャリア教育推進フォーラム

- ・発表、評価の場として年1回開催
- ・事務局：キャリア教育推進協議会事務局

家庭におけるキャリア教育（わが家の結いタイム）

- ・関係課：子育て支援課、学校教育課、生涯学習・スポーツ課 等

地域・社会教育におけるキャリア教育

(地域行事への参加・参画。ボランティア等)

- ・関係課：飯田市公民館、学校教育課、生涯学習・スポーツ課、社会福祉協議会 等

庁内調整会議

- ・各課が事業推進する上での横の連携に重点を置いた調整・情報共有
- ・関係課：学校教育課、飯田市公民館、大学誘致連携推進室、産業振興課、子育て支援課、共生・協働推進課
- ・事務局：生涯学習・スポーツ課

R4 年度 高校生のキャリア教育の取組

- ・高校現場では今年度より「総合的な探究の時間」が導入され、各学校では試行錯誤しながら進められている。
- ・体験的な学びを軸とした「飯田型キャリア教育」の考え方が高等教育でも理解され、地域との連携も進み始めている。



高等学校カリキュラムへの支援

- 【飯田 OIDE 長姫高等学校】
“地域人教育”
OIDE×飯田市公民館×松本大学パートナーシップ協定、課題研究発表会、地域創生教育、インターンシップ・就労体験、ボランティア体験
- 【飯田風越高等学校】
“Think global Act local!～地域から社会を考える～”
結いプロジェクト、探究学習に向けた講演会、探究学習、発表会、ボランティア体験、職業ガイダンス
- 【飯田女子高等学校】
“学校全てがキャリア形成の場”
飯女と地元企業をつなぐガイダンス・インターンシップ、探究学習、変な大人 50 人に会う企画、ボランティア体験
- 【下伊那農業高等学校】
“いのちの教育をモットーに専門的な学びと地域での学びで進路実現”
農業課、商業観光課、猟友会、地元企業や商店と連携しての実践的な学び、就労体験、ボランティア体験
- 【飯田高等学校】
“自らの人生を拓く「TAKAMATSU プロジェクト」”
社会人講話、大学模擬講義、探究講演会、ボランティア体験



社会教育等からのアプローチ

- 【飯田市公民館】
高校生講座・東北スタディツアー、地域人教育等 (OIDE)、探究学習支援(風越)、地区における高校支援、ムスブらざでの創発活動
- 【生涯学習・スポーツ課】出前講座…R3実績:市内5校で1～2講座受講、平和・人権・多文化セミナー、伊那谷の自然と文化人材育成「トークイベント “オトナよ、自分を語れ。”、やまびこマーチ・風越登山マラソン等への高校生ボランティア
- 【中央図書館】
飯田駅前図書館オープン、各高校の図書委員会、顧問との連携会議等
- 【飯田美術博物館】
探究学習支援
- 【大学誘致連携推進室】
高大連携、学輪 IIDA 共通カリキュラムフィールドスタディ(①ソーシャルキャピタル×多様性 FS ②地域経済 FS ③遠山郷エコ・ジオパーク FS)
- 【産業振興課】
雇用対策事業…各学校と企業とのマッチングを支援
- 【ゼロカーボンシティ推進課】
自ら考え行動する高校生のための相談会、南信州環境メッセ、SDGsカードゲーム体験会、探究学習支援

支援

《高等教育期までの系統的なキャリア教育の推進体制》

* 窓口：生涯学習・スポーツ課

- 1 飯田市キャリア教育推進協議会(年2回)・委員として代表高等学校長参加
- 2 飯田市キャリア教育研究委員会(年3回)・委員として小・中・高の教頭参加。他に園長、公民館主事、飯田事務所主事でキャリア教育について実践事例を持ち寄り検討。新たにキャリア・パスポートなど校種間のつながりについても検討。アドバイザー:荒井英治郎信大准教授
- 3 市内高等学校長と市教委との懇談(年3回)・情報共有、高校生支援事業、高校生意識調査について 等
- 4 高校・地域が連携した研究会の発足・各校の担当者により研究委員会参加、総合的な探究の時間について情報共有、学輪 IIDA への取組
- 5 飯田市キャリア教育推進フォーラム・R4 は飯田 OIDE 長姫高校の実践発表
- 6 結いジュニアリーダー育成講座・R4 は中学生と下伊那農業高校生(3年2名)との意見発表交流



高等学校カリキュラムへの支援

地域人教育(飯田OIDE長姫高等学校)



丸山地区



座光寺地区



龍江地区

平成24年に飯田OIDE長姫高校と松本大学と飯田市の3者がパートナーシップ協定を結び、地域人教育を始めて今年度で11年となります。

地域人教育の「地域人」とは、地域を「愛し」、「理解」して、地域に「貢献」する人材を育てていく事を指します。

地域人教育では、自分が暮らす地域で、周りの方々と良好な関係を築きつつ、常に当事者意識をもって地域づくりに関わろうとする人材を育成していくことを目的としたカリキュラムです。

3年生は毎年地区での実践を実施しており、今年度は、7地区(羽場・丸山・座光寺・龍江・鼎・上郷・全市)3テーマ(ムトスぶらざ・サウナ・空き家)10のグループに分かれ、それぞれの研究を進めました。

12月21日に1年生から3年生の商業科全生徒により成果発表会が実施され「卒業した後も関わった地域に訪れたい。」…発表の最後に生徒から嬉しい発言もありました。

各グループとも地域を感じ、様々な経験を重ねることで、自身の価値観を広げ、地域と関わる大切さを学びました。

参加した高校生の声

地域に出て話をしたり計画を立ててみると、**普段座学で学んでいる商業の授業の大切さがわかります。**地域に出ることで授業も好きになりました。

飯田は私たちのやりたいことを地域の人が応援してくれる場所、**自分のやりたいことが実現できる場所**なんだと感じています。

考え方の異なる人々との協力や交流を通して、**自分の世界観を広げていくことが楽しい。**

考え方の異なる人々との協力や交流を通して、**自分の世界観を広げていくことが楽しい。**

私たちは地域に出て学んでいます。でもはじめは「遊んでいる」と言われ、親から理解されませんでした。**学校での学び方自体が変化していることを、大人の人たちには知ってほしい**と思います。

探究学習「結いプロジェクト」(飯田風越高等学校)



飯田駅前に新たな公共空間が整備されることを受け、丘の上にある唯一の高校として、新たな交流の軸を共に考えようと、令和3年度長野県教育委員会の事業である「学校×KDDI 共創プロジェクト」にて昨年度2年生12名がムトスぶらざの活用について検討をしてきました。成果として本年度5月ムトスぶらざオープニングでは、施設案内や活用の提案をしました。

今年度は、現在の2年生20名がその活動を引き継ぎ、様々な年代の人が交差する場の創設を目指し、アイデアを形(イベント)にしました。

全員で目的や課題を共有しながら、実際どのような活動をおこしていくのか検討し、5グループがつながりを大切に様々な活動を展開しました。2月9日には成果発表会が開催されました。

(5グループ)

- ケーキ班 ■ ハーバリウム班
- ライブ班 ■ ヨガ体験
- わくわく実験

「社」+「学」ムトスぶらざにおける取組



ムトスぶらざは、交通の結節点であり、誰もが来訪しやすい環境となっており、日頃から大勢の高校生が利用しています。

飯田女子高校の探究学習の成果発表の場として作品展示が行われたり、創発コーディネーターマネージャー及び職員により高校生がやりたいこと等の相談窓口として機能を果たしています。

- 高校生期は、自我に目覚め、個性が伸長され、人格が形成されていく大切な時期です。
- 当地域は四年制大学が無く、高校卒業で高校生の約7割が地元を離れるという状況もあり、飯田型キャリア教育の推進の観点から、高校生へのアプローチは必要不可欠です。
- 人としての在り方、生き方についての基本的な姿勢は、その後の生き方を大きく左右していくため、高校生が地域に学び、仲間との共通経験を通じ、自身の価値観を広げていく機会が必要となります。
- 地域に誇りと愛着を持ちながら、グローバルな視点で飯田を捉え、飯田を自分の言葉で語れる・誇れる人となり、延いては次世代の飯田を担う人材・社会に貢献できる人材の育成を目指し、高校生を対象とした連続講座を実施しています。

【高校生講座で身に着けたい力】

前に踏み出す力

物事に進んで取り組む・他人を巻き込む・目的を設定し行動する

目の前のことに疑問をもち、考え抜く力

現状を把握し課題を明らかにする
計画して物事を考える・想像する

多様な人々とともに、目標に向けて協力する力

自分の意思をわかりやすく伝える。相手の話を聞く・尊重する
関係性を理解する・約束を守る

地域を理解する力

地域の歴史文化を理解し、地域を構造的にみる

【高校生講座で学ぶ要素】

大局的に学ぶ

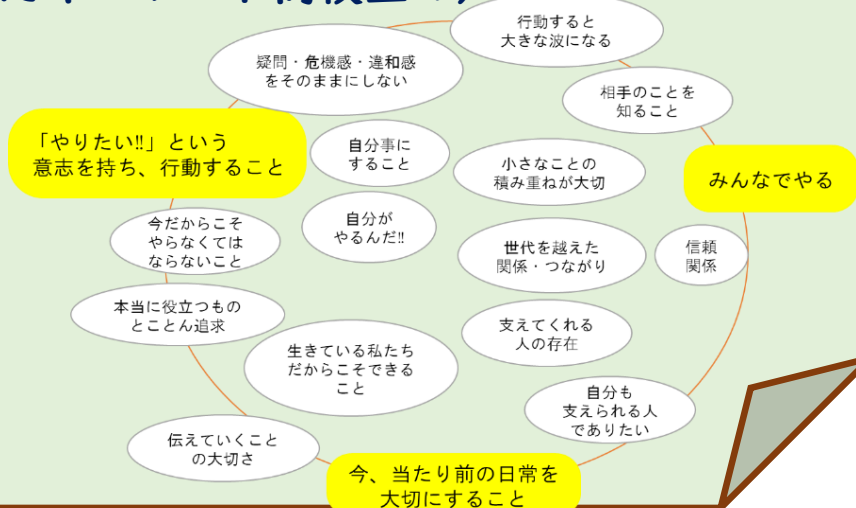
これからの時代はリニアに代表されるような世界規模の急激な変化の波に飲まれることなく、物事を様々な方向から見る視点、地域・全国・世界に目を向ける広い視野、過去から将来までを見据えた考え方が必要であるため、地域外で起こる変化を体験することが必要。社会の変化に乗り遅れるのではなく、先を見据えて課題解決に当たって考え得る様々な選択肢を用意し、柔軟な対応ができる能力を学ぶ。

住民主体の地域づくりを学ぶ

地域住民のつながりの大切さを肌で感じ、一人ひとりの力を結び、地域を自らの手でつくる地域づくりが行われていることを体験する。行政だけでまちをつくるのではなく、地域に暮らす住民と協働し、個性を生かした地域づくりをすることが重要であることを学ぶ。飯田で大切にする「結いの心」「ムトスの精神」をみんなで確認する。

▶令和4年度東北スタディツアー 5名の高校生が参加し現在講座を開催しています。(阿智高校2年生・飯田OIDE長姫高校2年生・飯田高校2年生・飯田高校1年生2名)

東北で出会った人の話から大切だと感じたキーワード高校生の声



東北現地研修



霜月まつり現地体験



滝の沢青壮年会と懇談



今宮郊戸八幡宮 秋季祭典



リニア時代の飯田について考える

高校生講座報告会
を開催します！
令和5年3月21日(祝)
ゲスト：石井山 竜平氏
ほか
(東北大学大学院教育学研究科
准教授/日本公民館学会 副会長)

地域の資源を活用した体験的な学びを学校教育で得られる知識や技能と結び付け、探究的な学びにつなげていく。
生徒の発達段階や各高校の特色に応じた教育に探究的な学びを無理なく組み込んでいくために、高校や地域それぞれの知見や情報を共有しながら考え合う研究会として立ち上げた。

アドバイザー：廣江彰先生（学輪メンバー、立教大学名誉教授、元東京家政学院大学学長）
各高校より担当とする先生を選出

学輪IIDAによる高大連携の取組

1. 学輪IIDA共通カリキュラムフィールドスタディ

フィールドスタディ	参加者	高校生向け事前学習会
【導入科目】8/16～18 多様性社会＋ソーシャル キャピタル	67名 内高校生26 名	7/22 小林正夫教授（東洋大学） 福島茂教授（名城大学）
【展開科目】8/19～21 地域経済	61名 内高校生9 名	7/22 榎平龍宏教授（大月短期大学）
【実践科目】9/17～19 遠山郷エコ・ジオパー ク	17名 内高校生5 名	7/3 田開寛太郎講師（松本大学）、増田直広 講師（鶴見大学短期大学部） 7/21 坂本正夫客員研究員、四方圭一郎学芸員 （飯田市美術博物館） 7/26 近藤大知学芸員（飯田市美術博物館）、 原澤主事（上村公民館）、宮田主事（南 信濃公民館）

2. 小諸商業高校探究型修学旅行（11月8日～11日）

- ・同高校教諭（元飯田OIDE長姫高校教諭）からの相談により実現した新たな展開。
- ・学輪IIDAフィールドスタディの知見と経験を注ぎ、当日も大学教員・学生が関わる取組。

3. ムトスぷらざ等を活用した高大連携

- ・今年度、飯田に関わりのあった大学等の教員および学生数：延べ377名（33校）
- ・情報発信として、学輪IIDAインフォメーションコーナー（プロジェクター投影）設置予定。
- ・高校生と大学生がともに学ぶインタースクール形式の活動等、今後の展開の可能性に期待。

参加した高校生の声

- ・たくさんの飯田の魅力を知れて良かった。
- ・大学生の方々と関わる機会が普段ないので、とても良い経験となった。オンラインではなく、実際に会って行うことができれば良かったと思う。
- ・飯田市って思っていたよりも全然すごいまちなんだなど知ることができて楽しかった。
- ・高校生から大学生といった年齢、出身地の違う人達とのグループワークでは、自分にはない視点、視野から同じテーマについて議論することで、新たな発見がたくさんあって参加してよかった。
- ・私はこの学輪 IIDA を通して、大学生の学びを知ることができたし、なにより自分の地元に近いところでの男女共同参画社会へ向けた活動を知れたことがとてもためになった。
- ・フィールドスタディを通して飯田市の魅力や経済の現実だけでなく、地域経済の考え方や考察の方法まで学ぶことができてとても勉強になりました。

令和4年度 高校と連携して実施した主な事業

飯田市産業振興課 産業人材係

1 「飯田女子高つなぐキャリアガイダンス」

対象：1～3年生の希望者 協力事業所：5事業所

放課後や休日を使って企業のガイダンスを開催しました。希望者が参加するため1回の参加学生は10人程度ですが、熱心な学生に参加いただきました。

5月24日(火) 旭松食品(株)
7月15日(金) 夏目光学(株)
10月11日(火) (株)ジョイフル・テン
12月13日(火) 座光寺保育園
1月23日(月) 泰阜村社会福祉協議会



夏目光学さんによるガイダンス

2 「阿南高校キャリア教育」(校内企業説明会と一日職場体験)

対象：2年生 高卒就職希望者 約30人 協力事業所：10事業所

就職のミスマッチを無くすため、本格的に就活をはじめる前の高校2年生が各産業分野の理解を深めることを目的として、校内企業説明会と一日職場体験を実施しました。

○「校内企業説明会」 9月22日 11時00分～12時00分

企業が高校に集まりブースを構え、高校生は興味のある事業所を2つ選択して聴講しました

○「一日職場体験」 11月4日 9時00分～15時00分 (各職場1人～5人)

9/22の説明会を受け、高校生が希望する職場で一日職場体験を実施しました

＜協力事業所＞

(株)イイダアックス	旭松食品(株)
(株)飯田コンサルタント	天恵製菓(株)
(株)オートパルいいだ	信菱電機(株)
山京インテック(株)	小木曾建設(株)
TDK エレクトロニクスファクトリーズ(株)	
シルクホテル	飯田市役所



飯田コンサルタントさん

3 「飯田風越高校職業学習」(職業ガイダンス)

対象：1・2年生 約400人 協力事業所：12事業所

開催日時：1月26日(木) 14時25分～16時15分

進学後の地元就職に対する関心を高めてもらうことを目的に、地域の12事業所で16の職種・業種のガイダンスを実施しました。全体講義では地域の雇用の状況と就職に向けた心構えについてハローワーク飯田の指導員の方にお話をいただきました。その後、学生は2つの職業分野を選択し、講師の方の話を伺いました。

＜協力事業所＞

健和会病院	飯田市社会福祉協議会
飯田広域消防本部	飯田市殿岡保育園
シルクホテル	ノエル洋菓子店
飯伊美容師会(髪結所)	旭松食品(株)
長姫調査設計(株)	セイコーアドバンス(株)
TDK エレクトロニクスファクトリーズ(株)	
飯田市役所	

※ 健和会病院は「看護師」「リハビリ」「栄養士」「放射線技師」「臨床工学技士」の各ご担当者が参加



飯伊美容師会さん



シルクホテルさん



長姫調査設計さん(ドローン操縦体験)

進学を希望する学生に向けた地元企業を「知る機会」の提供

～キャリア教育の視点から～

産業経済部×教育委員会

実業高校は、卒業の先に就職が見えていることから、インターンシップで地元就職に結び付けている一方、進学校では大学進学に向けたカリキュラム中心の授業となっている。しかしながらその中でも地元企業を「知る機会」を設け、進学後の就職先の一つの候補として、考えてもらうような取組を進める。

【令和4年度試行 飯田風越高等学校 職業学習】

日時

令和5年1月26日(木)14時25分から16時15分

対象者

飯田風越高等学校 1、2学年生徒(約400人)

会場

飯田風越高等学校 教室等

内容

飯田下伊那の雇用の状況と就職に向けた心構え
講師 ハローワーク飯田指導員

参加事業所

健和会病院、飯田市社会福祉協議会、飯田市役所、飯田広域消防本部、飯田市殿岡保育園、飯伊美容師会、シルクホテル中田製絲(株)、ノエル洋菓子店、旭松食品(株)

参加した高校生の声

・聞いたことのない体験のお話を聞いてその職業についてもっと興味が湧きました。

・飯田下伊那の会社の量にびっくりしました。

・世の中の情勢は変わっていくのでニュースに関心を持ちながら過ごしたい。自分自身のことを客観的に知ることの大切さを知った。

・飯田で働くこともいいなと思った。

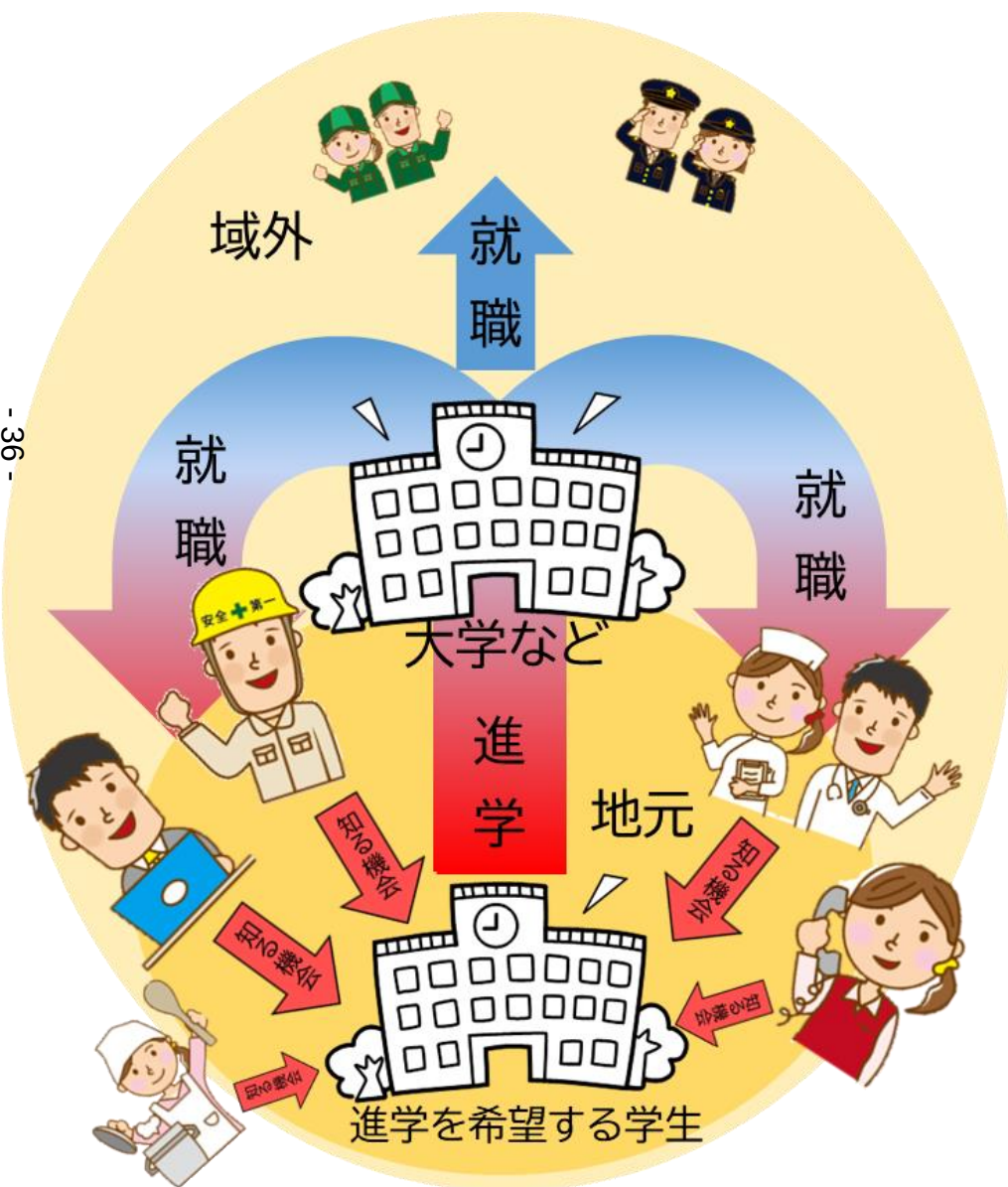
・(人手不足で)悪い状況につながることをないように人を沢山呼び込む工夫を自分たちの世代がしていくべきだと感じた。

・高校在学中にもっと地元企業についても見識を深めたいと思った。

・高校のうちから地元の会社について調べておく発想がなかったが、地元就職も考えておいて損がないと思った。

・自分が目指している進路とは違うけど、地元の就職や職業について知ることで視野が広がったので良かった。

・飯田から各地に羽ばたいていこうと思いました。



飯伊高校生若者平和・人権・多文化ゼミナール

戦争体験等を聞く機会の少ない高校生や若者世代を対象にして、戦争の惨禍から平和について考えるとともに、お互いの文化的ちがいを認め合うこと、公平な社会であること、人権が守られていることなど、これからの平和の在り方を主体的に学び、平和を次世代に語り継いでいくことを目的として開催。

「飯伊高校生若者平和・人権・多文化ゼミナール」主催：飯田市教育委員会

**伝えたい想い
未来につなぐ架け橋**

「平和」と聞いて、何を思い浮かべますか？
「平和」はずっと続くと思いますか？

過去を知り、現在を見つめ、
共に学び、未来に発信しませんか。

■講 座：全9回（1講座約90分）

■会 場：飯田市平和祈念館

■開催方法：基本は対面で開催。新型コロナウイルス感染状況によりオンライン参加も可能。

■対 象：平和・人権・多文化学習や地域学習に関心のある高校生、若者

■参加料：無料

■申し込み先・お問い合わせ先
飯田市教育委員会 生涯学習・スポーツ課 担当：矢澤
電話：0265-22-4511 内線3741 メール：shougai@city.iida.nagano.jp

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

申し込み二次元コード

【第2回】5月29日（日）10時～11時30分 ・先行事例の発表、グループワーク
・発表者 木村優也さん（飯田下伊那百計画実行委員会の立ち上げを通じた活動について）
紫芝 真さん（登戸研究所調査研究会と平和ゼミナールの活動について）

【第3回】6月12日（日）10時～11時30分 ・先行事例の発表、グループワーク
・発表者
田代直己さん（カンボジアスタディーツアーを通じた貧困と教育について）
大平一真さん（東北支援活動、満蒙開拓、コストリカスタディーツアーを通して平和を考える活動）

【第4回】9月17日（土）13時～16時 ・フィールドワーク、グループワーク
・満蒙開拓平和記念館見学（松川高校ボランティア部による展示ガイド）・寺沢秀文館長の講話

【第5回】10月15日（土）10時～11時30分 多文化理解について
・発表者 岐阜聖徳学園大学留学生3人（ウズベキスタン共和国、バングラデシュ、ブラジル出身）
内容 各国の食文化、日本と海外での食文化の違いについて

【第6回】12月3日（土）10時～11時30分
・講演「地域に根差した国際協力のためにーバングラデシュ支援から考える国際理解と国際協力ー」
講師：NPO法人バングラハート 代表 小笠原 一博さん

【第7回】1月14日（土）10時～11時30分
・講演：「地域の環境問題、里山整備、SDGsについて」
講師：いなだに竹Links 代表 曾根原 宗夫さん

【第8回】2月4日（土）ふりかえり、意見交換、次年度に向けて



R4.9.17付 河北新聞（仙台市）
でも取り上げられました



第4回 満蒙開拓平和記念館の見学
（松川高校の生徒さんによる案内の様子）

参加した高校生の声

- ・ **平和とは戦争がなくなることだけではない**ということを聞いてなるほどと納得できました。
- ・ **私達の今の行いが将来の子孫に影響すると考えると色々よく考えなければいけない**と思いました。
- ・ **口に出して戦争のことを話す機会がなかった**ので、参加できてよかったです。また、色々な意見や考え方があり、知ることができてよかったです。
- ・ **友達と聞く、言い合う、共感することが大切だ**と思った。当たり前で寝る、ご飯を食べることは何よりも幸せだなと感じました。
- ・ **自分のことばかりではなく、他の世界の人、文化に目を向けていくことが大切だ**ということを改めて学べるようになりました。

トークイベント オトナよ、自分を語れ。

～伊那谷の自然と文化 人材育成～

自然・美術・歴史等に関心を持つ高校生や、探究学習、キャリア教育の担当教諭に対し、社会教育機関の学芸員等がそれぞれの人生や研究等について熱く語る。このイベントを聞きに来た先生や生徒、その場に居合わせた高校生等がその話を耳にし、学芸員やその仕事を身近に感じてもらい、伊那谷の自然と文化の人材育成に繋げていく。

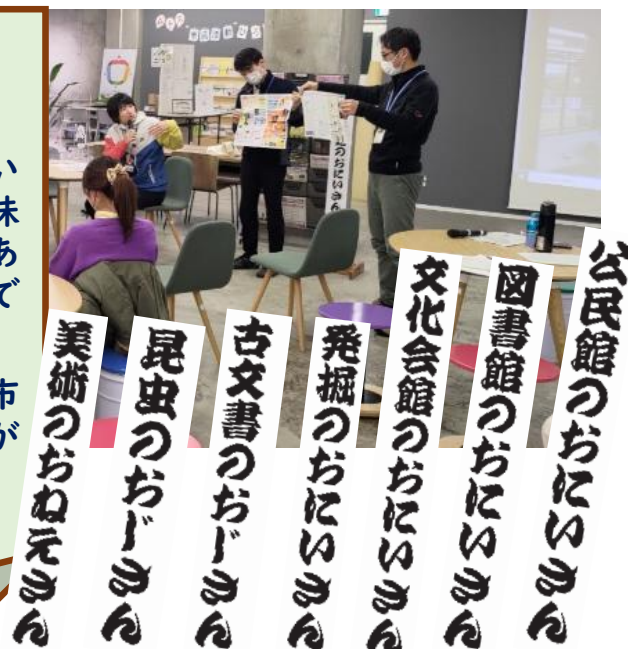


社会教育機関の学芸員らが、自らの人生、研究について学生に語り掛け、研究の道の面白さを伝える。

参加者の声

・たまたま通りかかったらやっていました。昆虫のおじさんの話に興味を持ちました。自然分野に興味があるので、次回もあるようなら一人でも参加しようと思います。

・チラシを見てきました。様々な市民の皆さんからマニアックなお話が聞ける機会があると思います。



トークイベント 🔥 オトナよ、自分を語れ。

伝えきれないけど伝えたい、それぞれの仕事やプライベート。
千差万別の「これがあるから人生超楽しい」をアツク語る。

制限時間は10分。

※どの話も万人受けする保障はまったくありません

日時 令和5年1月27日(金)

午後4時30分から6時頃まで

場所 飯田駅前 ムトスぷらざ2階
フリースペース

★出場予定選手★ 好き(得意)な分野がぜんぜん違う市の職員たちです

- ・美術のおねえさん
- ・昆虫のおじさん
- ・古文書のおじさん
- ・公民館のおにいさん
- ・図書館のおにいさん
- ・発掘のおにいさん
- ・教育委員会のおにいさん
- ・文化会館のおにいさん

参加費無料・事前申込不要!

おにいさんたちに質問もできます!お気軽におこしください \(\^o^)/

※マスク着用のうえご参加ください。

主催・問い合わせ 飯田市教育委員会 生涯学習・スポーツ課社会教育係 TEL:0265-22-4511

その他の行政機関と高校との関わり・連携・支援（令和４年度）

調査項目：①高校名 対象学年等 ②簡単な内容 ③時期や回数 ④取組時期 他

【中央図書館】

（１）下伊那高等学校司書会

- ①相手：学校司書
- ②学校司書間での情報共有
- ③定例会を月１回程度開催（図書館が参加したのはＲ４．６月とＲ５．１月の２回。他月は、図書館事業のチラシ配布等の協力のみ。）
- ④今年度から（会自体は以前から実施。）

（２）下伊那高等学校図書委員会交流会

- ①飯田・下伊那の図書委員（各校２名＋学校司書、主任） ※飯田女子高は入っていません。
- ②おすすめ本紹介、各校図書委員の活動紹介。今年度は「ムトスぷらざ」を会場にして行ったため、駅前図書館等の施設見学を実施。閉会后、紹介したおすすめ本と紹介POPを駅前図書館に展示。
- ③年１回（夏休み期間中に半日）
- ④今年度から（会自体は以前から実施。図書館が参加したのは今年度が初だと思います。）

（３）読み聞かせ指導

- ①飯田風越高校、下伊那農業高校、飯田女子高校の各校生徒
（女子高２年生は全生徒、３年生は選択。他校は選択授業のようです。）
- ②家庭科の授業で「幼児」に関する単元で「絵本の読み聞かせ」のやり方について授業を実施。
- ③年１回程度
- ④以前より依頼を受けて実施

（４）その他

各校、飯田市立図書館の団体用貸出カードを発行し、書籍の貸出等の連携は以前より行っています。

【飯田美術博物館】

（１）高校美術 鑑賞授業用動画

- ①飯田風越高校 ３年生
- ②美術選択の学生向けの授業用に、美術博物館で展示中の飯田下伊那ゆかりの絵画作品を、学芸員と教員が会話をするような形式で紹介する鑑賞動画を撮影。
- ③令和５年１月。１５分動画×４回分
- ④今年度から

（２）藤本四八記念小中高生写真賞

- ①飯田下伊那の小中高生
- ②①を対象とした写真賞。応募された全作品の展示を美術博物館等で開催。

- ③11月まで作品募集。1月表彰式、1月～3月作品展。
- ④平成19年度の藤本四八写真賞の一部門として設置。平成22年度から独立して開催。
- ※本年度が12回目

(3) 学輪 IIDA 共通カリキュラム 遠山郷エコ・ジオパーク FS (大学誘致連携推進室企画、四方・近藤)

- ①飯田市の高校生、全国の大学生
- ②エコパーク、ジオパークに認定されている遠山郷を対象としたフィールドワーク
- ③7月事前学習、8月FS当日 ※主に事前学習等に講師として関与
- ④美術博物館が関与を始めたのは令和3年度から

(4) 飯田高校 探究の時間事前学習

- ①飯田高校 1年生
- ②探究学習のテーマを見つけるための講義
- ③6月：1年生全員にオンライン講座、10月：理数科1年生に3回授業
- ④今年度から

(5) 探究学習指導

- ①飯田高校、飯田女子高校 2年生
- ②探究学習のまとめ方、動植物の種同定などを指導
- ③11月～1月 対面やメールなどで6回程度
- ④5～6年前から時々対応（相談がある年と無い年あり）

【歴史研究所】

- ①飯田風越高校 国際教養科2年生
- ②「課題研究」の授業を1コマ担当し、「歴史を知るおもしろさ」というタイトルで、歴史研究所や自らの調査研究を紹介
- ③7月に1回
- ④以前から断続的に歴史研究所の研究員が担当

【飯田文化会館】

(1) 音楽クリニック（オケとも）

- ①飯田下伊那に在学の高校生
- ②プロの演奏家からの直接指導と成果発表のコンサート
- ③3月、4月（事前）5月（音楽祭）
- ④2008年から 5つあるコースの中の高校生吹奏楽コース

(2) 飯田人形劇フェスタサポートスタッフ

- ①高校6校
- ②2022年のフェスタに15名の参加予定者
- ③8/4～8/7 フェスタは中止になりました

(3) 人形浄瑠璃指導

- ①飯田女子高校 人形劇クラブ
- ②女子高への人形浄瑠璃の指導
- ③通年 約 50 回
- ④黒田人形保存会の活動として

【ゼロカーボンシティ推進課】

前置き

当課の取組は、課独自に実施したものではなく、令和 4 年 6 月 29 日に飯田市・南信州地域振興局・飯田信用金庫の三者で設立した「環境文化都市づくりプラットフォーム」としての取組である。当プラットフォームは SDGs や地域課題について、「知る・学ぶ」機会と「対話・交流」する機会を提供し、段階を経て実際に「行動・実践」すること目標に取り組んでおり、行動する人を支援する枠組である。

(1) 環境文化都市づくりプラットフォームキックオフイベント

- ①飯田 OIDE 長姫高校、飯田女子高校、飯田女子短期大学 (全学年に案内)
- ②・環境文化都市づくりプラットフォームの説明
 - ・持続可能なまちづくりに関する講演会 (講師：信州大学人文学部准教授 茅野 恒秀 氏)
 - ・持続可能なまちづくりに関する意見交換会 (南信州地域がどのようになってほしいかを自由に)
- ③令和 4 年 6 月 29 日
- ④今年度から

(2) 自ら考え行動する学生のための相談会

- ①飯田風越高校、飯田女子高校、飯田女子短期大学 (全学年に案内)
- ②やりたいことがあるけどどうしていいかわからない、仲間が欲しいといった人向けの相談会
 - ・飯田風越高校 … 飯田下伊那地域の 18 歳の投票率を 100%にしたい
 - 南信州地域振興局の選挙普及担当者と共に同校での長野県知事選の案内を実施
 - ・飯田風越高校 … 飯島町のわら細工の魅力を海外の人に知ってもらいたい (発信したい)
 - 飯田市在住の外国人 (ALT 等) のコミュニティーに同席しアンケートを実施
 - ・飯田女子高校 … 国際医療や途上国の支援に興味があり、海外で活躍している日本人と話したい。
 - JICA の方や西アフリカで活動する方の個展を紹介しインタビューを実施。
 - ・飯田女子短期大学 … みんなが笑顔になれるまちをつくりたい
 - 飯田市健康福祉部の担当者と意見交換の場を設け、課題やビジョンを説明。
- (全 4 校 7 名が参加)

- ③令和 4 年 7 月 20 日
- ④今年度から

(3) SDGs の基本講座

- ①下伊那農業高校 (SDGs プロジェクトチーム 約 30 名)

- ②同校が令和4年度より設立した SDGs プロジェクトチームを対象とした勉強会
- ③令和4年9月29日
- ④今年度から

(4) 地域ビジネスと環境

- ①飯田 OIDE 長姫高校 (2 学年 7 クラス)
- ②同校が2学年に設置している科目「地域ビジネスと環境」で、SDGs や気候変動に関する授業を実施。
- ③令和4年10月中旬 (各クラスで授業を実施)
- ④今年度から

(5) 南信州環境メッセ 2023「SDGs カフェ by 環境文化都市づくりプラットフォーム」

- ①飯田女子高校、下伊那農業高校、飯田西中学校、緑が丘中学校
- ②・各校の SDGs に関する取組の事例発表
 - ・基調講演として、遠山郷における ESD の取組 (講師：松本大学専任講師 田開 寛太郎 氏)
 - ・事業所で登壇した、根羽村森林組合の「木の糸」の取組に関する事例発表を聴講
- ③令和4年11月5日
- ④今年度から (※南信州環境メッセは以前から)

(6) 農業の視点から「SDGs」を学ぶ講座

- ①下伊那農業高校
- ②・ネパールで行う農業振興等の取組紹介 (信州大学農学部コーディネーター 佐藤 利春 氏)
 - ・当地域での取組紹介 (長谷川農園 長谷川 一矢 氏、上久堅地区地域おこし協力隊 地主 健一 氏)
- ③令和4年11月24日
- ④今年度から

(7) 2030SDGs カードゲーム体験会

- ①飯田女子高校、飯田 OIDE 長姫高校、飯田風越高校、下伊那農業高校 (案内実施、参加未定)
- ②楽しみながら学べる「2030SDGs カードゲーム」の体験会及び NPO 法人いなだに竹 Links の取組紹介
- ③令和5年3月18日
- ④今年度から

キャリア教育に関わる意識調査の結果（R4年度）

- ・高校生対象の調査は H27 年度以降実施していなかったが、R4年 12 月に南信州8高校の全校生徒対象に実施した。
- ・質問1については、全国学力・学習状況調査の質問項目にはないため、R4年 12 月に市内小6年・中3年と南信州8高校において実施した。
- ・質問2, 3については、小・中学生対象に実施している全国学力・学習状況調査の質問項目を、高校生の発達段階に応じた内容にするために、市内高等学校長と検討して決め出した。
- ・回答方法は県が行う高校生対象に実施する「学びの指標」に合わせて5つとした。
①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない ⑤回答できない・回答したくない

問1 ふるさと(自分の生活している地域)に対して愛着を感じていますか

	①	②	③	④	⑤
市高	34.2	47.2	10.9	4.3	3.4
	81.4		15.2		3.4
8高	34.5	46.5	10.8	4.6	3.6
	81.0		15.4		3.6
H27 高	28.3	46.7	1.4	0	23.6
	75.0		1.4		23.6

*市高:市中学校卒業 *8高:南信州8高校の全校生徒
*H27 は郡内高校の各学年1学級ずつを任意抽出調査

参考:ふるさと(自分の生活している地域)に対して愛着(好きな気持ち)を感じていますか

	①	②	③	④	⑤
市小6	52.1	32.3	5.3	1.9	8.4
	84.4		7.2		8.4
市中3	39.2	36.9	7.9	4.7	11.3
	76.1		12.6		11.3

*「思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合

問2 地域(社会)をよりよくするために、地域課題の解決に関わりたいと思いますか

	①	②	③	④	⑤
市高	14.6	47.4	23.8	9.0	5.2
	62.0		32.8		5.2
8校	14.2	48.2	24.0	8.5	5.1
	62.4		32.5		5.1

参考:地域や社会をよりよくするために考えることがある割合 (R4 年5月実施 全国学力・学習状況調査)

	R4	R3	R1
市小6	52.3	52.6	55.9
県/全国	56.5/51.3	57.1/52.4	57.0/54.5
市中3	39.0	48.4	40.0
県/全国	46.0/40.7	49.2/43.8	43.9/39.4

問3 地域(社会)と自分のつながりや関係を意識しながら、自分の将来について考えることがありますか

	①	②	③	④	⑤
市高	14.7	38.0	28.4	14.6	4.3
	52.7		43.0		4.3
8校	14.9	38.5	28.3	14.0	4.3
	53.4		42.3		4.3

参考:人の役に立つ人間になりたいと思う割合

(R4 年5月実施 全国学力・学習状況調査)

	R4	R3	R1
市小6	95.3	95.8	95.5
県/全国	95.6/95.1	95.9/95.5	95.3/95.2
市中3	94.9	96.5	95.0
県/全国	95.3/95.0	95.4/95.0	94.8/94.3

*「思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合

考察

- 問1から、高校生のふるさとに対する愛着は、H27 年度の調査と比較して高まってきている。これは、小・中学校において、地域の人・もの・ことに触れる学び等を行ってきたことや、高校において地域と関わる活動による成果ではないかと感じる。
- 問2から、地域課題の解決に関わろうと思う高校生は6割以上となった。中学生より、高校生の方が地域に関わろうとする意識が高くなっている。
- 問3から、地域を意識して将来を考える割合は5割程度である。国・県等で同様な調査がなく比較できないが、キャリア教育の願いでもある「地域の担い手」や、外からでも「地域を支える人づくり」につながる指標であり、さらに高めていきたい。
- 全ての質問で高校3年生の肯定的な割合が高くなっている。このことから、3年生になるとより地域を意識していることが伺える。

参考	問1	問2	問3
市高全校	81.4	62.0	52.7
市高3年	81.3	63.4	58.6

部活動地域移行を見すえた中学生期のスポーツ・文化芸術活動環境の充実に向けた取組について

飯田市教育委員会

【中学校部活動改革の経過 ※抜粋】

- 「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」(H30) スポーツ庁
- 「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」(H30) 文化庁
- 「長野県中学生期のスポーツ活動指針」改定 (H30) 長野県
- 「飯田市の中学校部活動の活動指針」改定 (H30. R2) 飯田市
- 「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」
(R4) スポーツ庁・文化庁

1 取組の背景と課題

①少子化

- 課題 1 生徒数減少に伴う部活動数の減少と競技や活動の選択肢の少なさ
- 課題 2 専門的な知識や競技経験が少ない教職員による指導

②過熱化

- 課題 3 長時間化する部活動の活動時間
- 課題 4 継続する部活動の延長の社会体育
- 課題 5 少年スポーツの過熱化等による運動部活動の加入率の低下 →体力低下

2 飯田市のこれまでの取組と成果

(1) これまでの重点的な取組

①生徒の心身の成長に配慮した学校部活動の適正化 = 部活動の活動指針の改定

- ・学校のエデュケーションとしての部活動の意義の再確認
 - 生徒の心身の健やかな成長と生きる力や生涯にわたって運動や文化芸術活動に親しむ力を育む学校の教育活動である。
- ・適正な活動時間の設定 年間総活動時間平均 665 時間→410～430 時間に改善
 - 平日の練習時間は 2 時間以内、1 日以上 of 休養、土日は 3 時間以内どちらか 1 日を休養日とする
 - 部活動の延長としての社会体育の廃止 (H26 県教委通知の適用)
 - 11 月～1 月までの 3 ヶ月間を放課後部活動オフ期間とする。
= 冬季ジブン・チャレンジ期間の設定 (やりたいこと、新しいことに挑戦)

②地域における多様な選択肢が可能な活動の場づくり

- ・飯田市スポーツ協会との連携による「全市型競技別スポーツスクール」の実施 (R1～)
 - 「体験型」「競技力向上」等、中学生の志向に対応した教室 (R4: 16 競技 20 講座)
- ・社会教育機関等との連携による文化講座の実施 (R2 試行 R3～本格実施)
 - 英会話体験、プログラミング教室、人形劇、地区公民館企画教室 等 (R4: 21 講座)

③生徒の主体性を育む取組と活動を支える教職員や指導者の力量形成

- = 筑波大学 AD との連携による授業・研修会の実施
- ・11 月～1 月のオフ期間を「冬季ジブン・チャレンジ期間」とし、全学校で展開、教職員対象研修会を実施
 - R4. 11～R5. 1: 竜峡中学校での実践(全 3 回)、教職員対象研修会(1 回)

・生徒が主体となる部活動の実現へ向けたモデル事業（チームビルディング研修）

➤R4.7～8：旭ヶ丘中バレーボール部、テニス部、飯田西中バレーボール部、
飯田東中・西中合同野球部 部員と顧問を対象とした目標設定

(2) これまでの取組の成果と課題

- (成果) ①部活動時間の適正化による心や身体の不調の予防
②中学生の地域での多様なスポーツ・文化芸術活動の機会提供
③学校の枠を越えた新しい交流機会の提供
④中学生の主体性や挑戦する意欲の向上
⑤教職員や競技団体等指導者等の力量形成
- (課題) ①保護者や地域指導者の中学生のスポーツ活動に対する意識の醸成
②特に小規模校や山間部の生徒のニーズに応じた活動の機会提供

3 令和5年度以降の取組の方向性

※部活動の地域移行を進めていく上で前提となる考え方

従来の学校部活動の受け皿をつくることではない。これまでの取組を土台にして、大切にしていきたいことを関係者と共有しながら進めていく。

(1) 部活動地域移行をみすえためざす姿

『中学生がウェルビーイングを感じながら、

地域の中で、やりたいスポーツ・文化芸術活動に挑戦できる場づくりを進めていく』

部活動の意義を引き継ぎ、中学生の*ウェルビーイングを中心においた、より良いスポーツ・文化芸術活動の場を、学校・保護者・地域が連携し地域ぐるみでつくっていくことを共通理念とすることで、結果的に生涯にわたってスポーツに親しむ子どもを育むことにつながる。

*ウェルビーイング：楽しい、熱中する、仲良く、充実感を感じる、成長する等のさまざまな生徒の欲求を踏まえた 心も体も健康で幸せな状態

(2) 取組みの方向性

- ①部活動の地域移行をふまえ、学校と地域をつなぐ「部活動地域移行支援コーディネーター」を配置し、地域における文化・スポーツ環境の充実に向けた取組
- ②全市型競技別スポーツスクールや文化講座は選択肢の一つととらえ、各地区関係団体や民間等との連携による、中学生の志向や地区の実状に応じた新たな活動の場の創出
➤スポーツ協会や各地区関係団体、民間クラブ等の実態把握と新たな活動の場の検討
- ③生徒の心身の成長に配慮した活動の適正化の継続
➤活動指針の遵守、保護者や地域指導者への意識啓発
➤部活動総時間数の徹底（665時間→410～430時間）
- ④生徒の主体性を育む指導者の育成
➤冬季ジブン・チャレンジ期間の全校展開や生徒が主体となる部活動運営事業の継続
➤指導者の心得6カ条の共有（飯伊地区との連携）
➤指導者育成研修会の実施と市独自の指導者認定制度等の検討
- ⑤部活動地域移行の目的や活動の適正化に対する保護者や地域指導者への理解促進
➤指導者・保護者を対象とした研修会等の開催
- ⑥将来に向けた体制づくりをめざした、学校・地域・関係団体等との協議の場の設置
➤飯田市中学生期の文化芸術・スポーツ活動連携協議会の開催

(3) 関係者による連携協議会の設置について

協議会名 「飯田市中学生期の文化芸術・スポーツ活動連携協議会」

①目的

学校、地域、文化・スポーツ関係者が集まり、地域における中学生の多様な文化芸術・スポーツ活動の場を充実に向けて協議する。

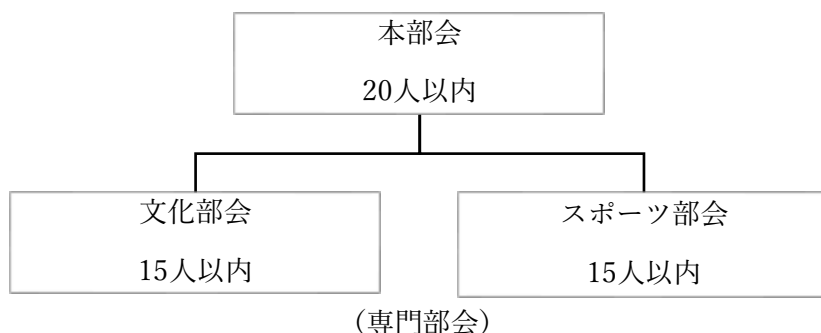
②協議内容

- ・部活動地域移行についての目的の共有、進め方（ロードマップ等）
- ・エリアや運営主体に関すること
- ・指導者の確保、育成に関すること（教職員の兼職兼業、育成研修会、認定制度等の検討）
- ・参加費等の負担や財源の確保に関すること
- ・保護者や指導者の意識の醸成（ルールづくり、研修会等）
- ・関係団体の役割 等

③組織図

○本部会・・・年3回程度開催

○専門部会（文化部会、スポーツ部会）・・・随時開催（各2～3回程度）



④ 構成メンバー

・本部会

小中学校長会・教頭会、公民館、保護者代表(PTA 連合会)、社会教育委員会、下伊那教育会、スポーツ推進審議会、飯田市スポーツ協会、スポーツ推進委員協議会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、民間クラブ、飯田文化協会、伊那谷研究団体協議会、文化芸術活動関係者 等の代表者、外部アドバイザー

・文化部会

小中学校長会・教頭会、公民館、保護者代表、社会教育委員会、飯田文化協会、伊那谷研究団体協議会、文化芸術活動関係者、民間クラブ 等

・スポーツ部会

小中学校長会・教頭会、公民館、保護者代表者、スポーツ推進審議会、飯田市スポーツ協会、スポーツ推進委員協議会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ活動関係者、民間クラブ、中体連事務局 等

⑤スケジュール

- ・～R5.3 協議会準備……………会議の役割、現状と課題、今後の進め方についての検討
- ・R5.5.24 第1回会議……………現状の課題や部活動地域移行の意義の共有、ビジョンの検討
- ・10月(予定) 第2回会議……………ビジョンの策定、進め方の確認
- ・2月(予定) 第3回会議……………役割分担、次年度以降の進め方の検討